

もくじ

もくじ	1
はじめに	5
DynaBook でやりたいことを探そう！	8

1章 本体の機能

13

1 各部の名前	14
① 前面図	14
② 背面図	16
③ 裏面図	17
2 システムインジケータ	19
3 キーボード	20
① キーボード図	20
② キーシフトインジケータの切り替え	22
③ キーを使った便利な機能	23
4 タッチパッド	27
① タッチパッドを設定するには	27
② タッピング機能	27
③ その他の設定	30
④ タッチパッドを無効／有効にするには	31
5 ディスプレイ	33
① ディスプレイの設定	33
6 ハードディスクドライブ	39
① ハードディスクドライブに関する表示	39
7 サウンド機能	40
① スピーカーの音量を調整する	40
② 音楽／音声の録音レベルを調整する	41
8 フロッピーディスクドライブ	42
① フロッピーディスク	42
② フロッピーディスクのセットと取り出し	42
③ フロッピーディスクを使う前に	44
9 マルチドライブ	48
① CD／DVDについて	48

10 SD メモリカード	51
① SD メモリカードについて	51
② SD メモリカードのセットと取り出し	52
③ SD メモリカードを使う前に	53
11 ワンタッチボタン	55
12 新着メールを LED で確認する	58
① 新着メールチェックの設定をする	58
② 新着メールを確認する	63
③ 新着メールチェックを停止する	63
13 内蔵モデムについて	65
① 海外でインターネットに接続する	65
14 セキュリティロック	68

2章 バッテリ駆動

69

1 バッテリについて	70
① バッテリ充電量を確認する	71
② バッテリを充電する	73
③ バッテリパックを交換する	75
2 省電力の設定をする	77
① 省電力ユーティリティ	77
3 パソコンの使用を中断する／電源を切る	82
① スタンバイ	82
② 休止状態	83
③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する	84

3章 音楽と映像

87

1 音楽 CD を聴く	88
① Windows を起動して音楽 CD を聴く	88
② Windows を起動しないで音楽 CD を聴く	90
2 音楽ファイルを聴く	91
① 音楽再生用アプリケーションを起動する	91
② Windows Media Player でファイルを再生する	91

3 オリジナル音楽CDを作る	95
① Drag'n Drop CD を使う前に	95
② Drag'n Drop CD を使う	96
4 DVD-Video を観る	99
① InterVideo WinDVD を起動する	99
② InterVideo WinDVD を使う	100
5 デジタルカメラの写真を編集／整理する	105
① デジカメ Walker を使う	105
6 動画を編集する	108
① MotionDV STUDIO を使う	108
② デジタルルビデオカメラを接続する	109

4章 周辺機器の接続

111

1 周辺機器について	112
① 周辺機器を使う前に	113
2 PC カードを接続する	114
① PC カードを使う前に	114
② PC カードを使う	115
3 USB 対応機器を接続する	117
4 プリンタを接続する	118
① プリンタの接続と設定	118
5 テレビを接続する	120
6 CRT ディスプレイを接続する	123
7 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する	124
8 その他の機器を接続する	126
① RS-232C 対応機器	126
② PS/2 対応機器	126
③ マイクロホン	127
④ ヘッドホン	128
9 LAN へ接続する	130
10 メモリを増設する	133

5章 アプリケーションを追加する／削除する

139

- 1 アプリケーションを追加（インストール）する 140
- 2 アプリケーションを削除（アンインストール）する 141

6章 システム環境の変更

143

- 1 システム環境の変更とは 144
- 2 東芝HWセットアップを使う 145
 - ① 東芝HWセットアップの起動と使用 145
- 3 セットアッププログラムを使う 151
 - ① セットアッププログラムの操作 151
 - ② セットアッププログラムの画面 153
 - ③ 設定項目 154

付録

169

- 1 アプリケーション一覧 170
 - 2 本製品の仕様 172
 - 3 各インターフェースの仕様 177
 - 4 技術基準適合について 184
- さくいん 199

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。内容をよく読んでから使用してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

⚠ 警告	“誤った取り扱いをすると人が死亡する、または重傷を負う可能性があること”を示します。
⚠ 注意	“誤った取り扱いをすると、人が傷害 ^{※1} を負う可能性、または物的損害 ^{※2} のみが発生する可能性があること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知つておくと便利な内容を示します。
参照 ➔	<p>このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。</p> <p>このマニュアルへの参照の場合 … 「 」</p> <p>他のマニュアルへの参照の場合 … « »</p> <p>サイバーサポートへの参照の場合 … < ></p> <p>サイバーサポートにはさまざまな情報が搭載されており、自然語で検索できます。</p>

※ 1 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。

※ 2 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットに関わる拡大損害を示します。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムはWindows XPです。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP

Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。

MS-IME Microsoft® IME スタンダード 2002 を示します。

サイバーサポート

CyberSupport for TOSHIBA を示します。

記載について

- ・インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- ・ Microsoft、Windows、Office ロゴ、Outlook、Bookshelf は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Bookshelf Basicは、次の書籍を基に制作されました。『新英和中辞典』第6版 (c) 研究社 1967,1994,1998、『新和英中辞典』 第4版 (c) 研究社 1993, 1995,1998、『新明解国語辞典』 第5版 (c) 三省堂 1972,1974,1981,1989,1997
- ・ Intel、インテル、Pentium、Celeron は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- ・ CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの商標です。
- ・ CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、CyberSupport にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- ・ i.LINK と i.LINK ロゴは商標です。
- ・ LaLaVoice、The翻訳、The翻訳インターネットは（株）東芝の商標または登録商標です。
- ・ Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Acrobat は Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の商標です。
- ・ Drag' n Drop CD はイージーシステムズジャパン株式会社と株式会社デジオンの商標です。
- ・ Easy Systems はイージーシステムズジャパン株式会社の登録商標です。
- ・ DigiOn は株式会社デジオンの登録商標です。
- ・ VERITAS は米国 VERITAS 社の登録商標です。
- ・ 駅すばあとは株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
- ・ プロアトラスは株式会社アルプス社および株式会社アルプス出版社の登録商標です。
- ・ Symantec、Symantec ロゴ、Norton AntiVirus、Live Update は Symantec Corporation の登録商標です。
(c) 2002 Symantec Corporation, All Rights Reserved.
- ・ 時事通信社「家庭の医学」デジタル第Ⅱ版は、時事通信社の商標です。
- ・ infoPepper は東芝情報システム株式会社の登録商標です。
- ・ アメリカ・オンラインおよび AOL は AOL の登録商標です。
- ・ BIGLOBE は日本電気株式会社の商標です。
- ・ DION は KDDI 株式会社の登録商標です。

- ・OCNはNTTコミュニケーションズ株式会社の商標です。
- ・@niftyは、ニフティ株式会社の商標です。
- ・ODNは日本テレコム株式会社の商標です。
- ・東京電話インターネットは東京通信ネットワーク株式会社の登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的に又は家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守の上、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ず読んでください。本製品の電源を入れた状態で、次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックする
- ② [ヘルプトピックを選びます] の [リリース情報] をクリックする
- ③ 左画面の [リリース情報] をクリックする

お願い

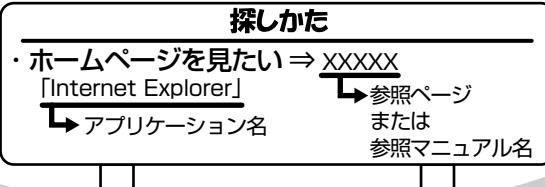
- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）は、本製品でのみ利用できます。
- ・購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

使用する前に本体同梱の「お客様登録カード」に必要事項を記入のうえ、返送してください。「保証書」は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

DynaBookでやいたいことを探そう！



Welcome!



インターネットを楽しむ

- ・プロバイダと契約したい ⇒ 『まずはこれから』
「簡単インターネット」
- ・ホームページを見たい ⇒ 『基本をマスター 2章』
「Internet Explorer」
- ・英語のホームページを日本語に翻訳したい ⇒ 《サイバーサポート》
「インターネット翻訳 英日」
- ・日本語のホームページを英語に翻訳したい ⇒ 《サイバーサポート》
「インターネット翻訳 日英」
- ・海外でインターネットに接続したい ⇒ P.65
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」



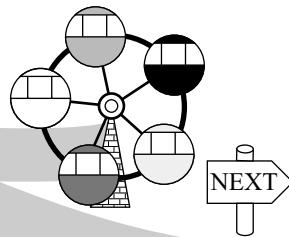
メールを使う



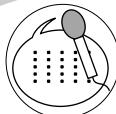
- ・メールとスケジュールをまとめて管理したい ⇒ 《サイバーサポート》
「Microsoft Outlook」
- ・メールをしたい ⇒ 『基本をマスター 3章』
「Microsoft Outlook」
- ・自動メールチェックしたい ⇒ P.58
「新着メールチェックのスケジュール設定」



音楽を楽しむ



- ・音楽CDやファイル、ムービーを再生したい ⇒ P.88
「Windows Media Player」
- ・オリジナル音楽CDをつくりたい ⇒ P.95
「Drag'n Drop CD」



音声



- ・パソコンを音声で操作したい
パソコンに文章を読み上げさせたい
「LaLaVoice」 ⇒ 《サイバーサポート》



画像 / 映像を楽しむ

- ・デジタルカメラの写真を取り込んで編集したい ⇒ P.105
「デジカメWalker (Ulead iPhoto Express)」
- ・デジタルビデオカメラの映像を取り込んで編集したい ⇒ P.108
「MotionDV STUDIO」
- ・DVDを楽しみたい ⇒ P.99
「InterVideo WinDVD」



文書/表を作る

- ・案内状や報告書を作りたい ⇒ 《サイバーサポート》
「Microsoft Word」
- ・表やグラフを作りたい ⇒ 《サイバーサポート》
「Microsoft Excel」



便利なソフト

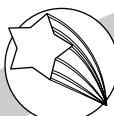
- ・PDFファイルを見たい ⇒ 《サイバーサポート》
「Acrobat Reader」
- ・地図で場所を調べたい ⇒ 《サイバーサポート》
「プロアトラス2002 for TOSHIBA」
- ・電車の経路や時刻表、運賃を調べたい ⇒ 《サイバーサポート》
「駅すぱあと」
- ・年賀状や暑中見舞いを作りたい ⇒ 《サイバーサポート》
「筆ぐるめ」
- ・国語/英和/和英辞典を使いたい ⇒ 《サイバーサポート》
「Microsoft Bookshelf Basic」
- ・医学辞典を使いたい ⇒ 《サイバーサポート》
「時事通信社「家庭の医学」デジタル第Ⅱ版」
- ・携帯電話を快適に使いたい ⇒ 《サイバーサポート》
「携快電話6in」





パソコンを守る

- ・ウイルスのチェックや駆除をしたい
「Norton AntiVirus 2002」⇒『困ったときは 2章』
- ・CD-R、CD-RWにバックアップを取りたい
「Drag'n Drop CD」⇒『困ったときは 2章』



パソコンの設定

- ・パソコンの状態をチェックしたい
パソコンの基本情報を知りたい ⇒『困ったときは 1章』
「東芝PC 診断ツール」
- ・ハードウェアの設定を変えたい ⇒P.145
「東芝 HW セットアップ」
- ・ワンタッチボタンの設定を変えたい ⇒P.55
「東芝コントロール」
- ・キー操作でアプリケーションを起動したい ⇒《サイバーサポート》
「Fn-esse」
- ・バッテリ駆動のときの省電力設定をしたい ⇒P.77
「東芝省電力ユーティリティ」



1 章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

また、使いやすいように各部機能の設定を変更、調整する操作やショートカットなど役に立つ機能も紹介。各部の手入れについても確認してください。

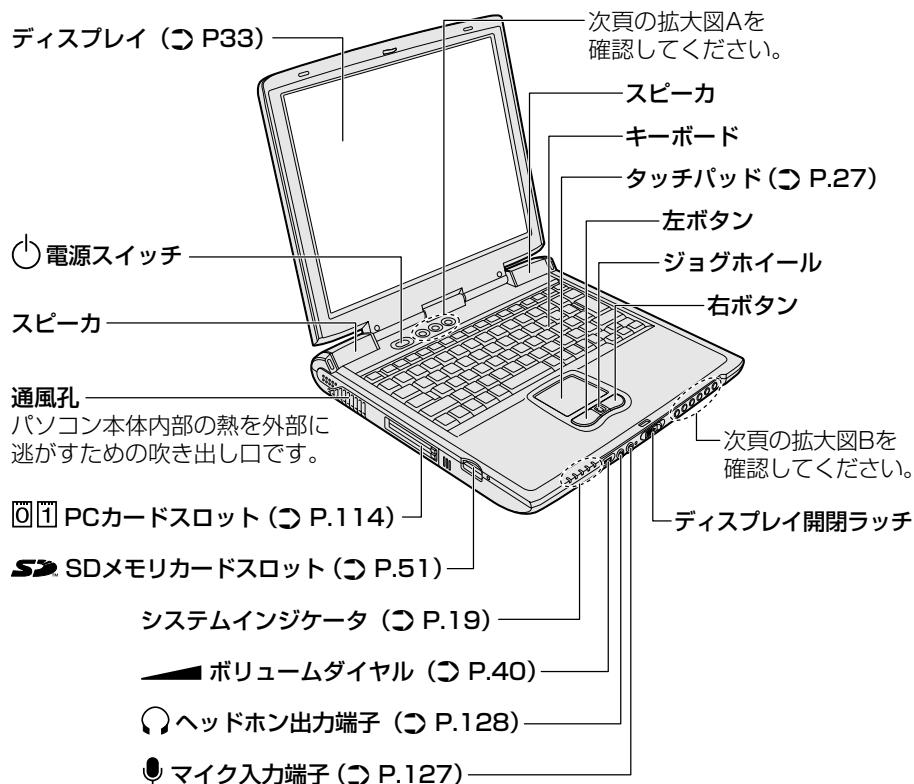
1	各部の名前	14
2	システムインジケータ	19
3	キーボード	20
4	タッチパッド	27
5	ディスプレイ	33
6	ハードディスクドライブ	39
7	サウンド機能	40
8	フロッピーディスクドライブ	42
9	マルチドライブ	48
10	SDメモリカード	51
11	ワンタッチボタン	55
12	新着メールをLEDで確認する	58
13	内蔵モデムについて	65
14	セキュリティロック	68

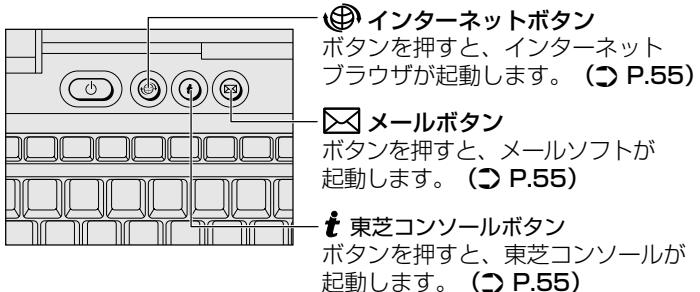
1 各部の名前

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。

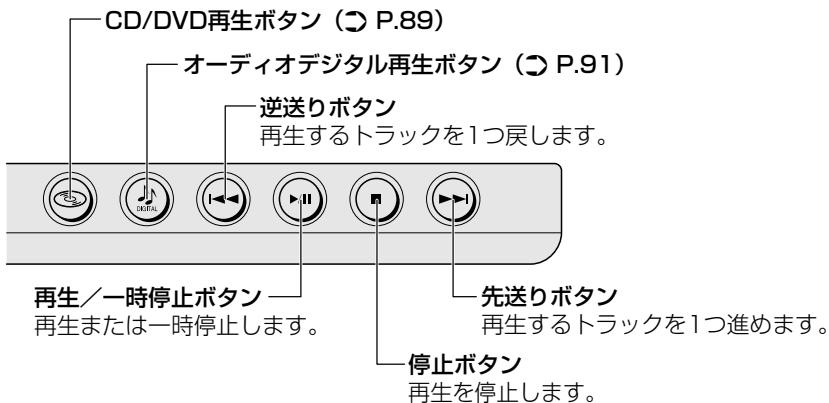
それについての詳しい説明については、各参照ページを確認してください。

1 前面図

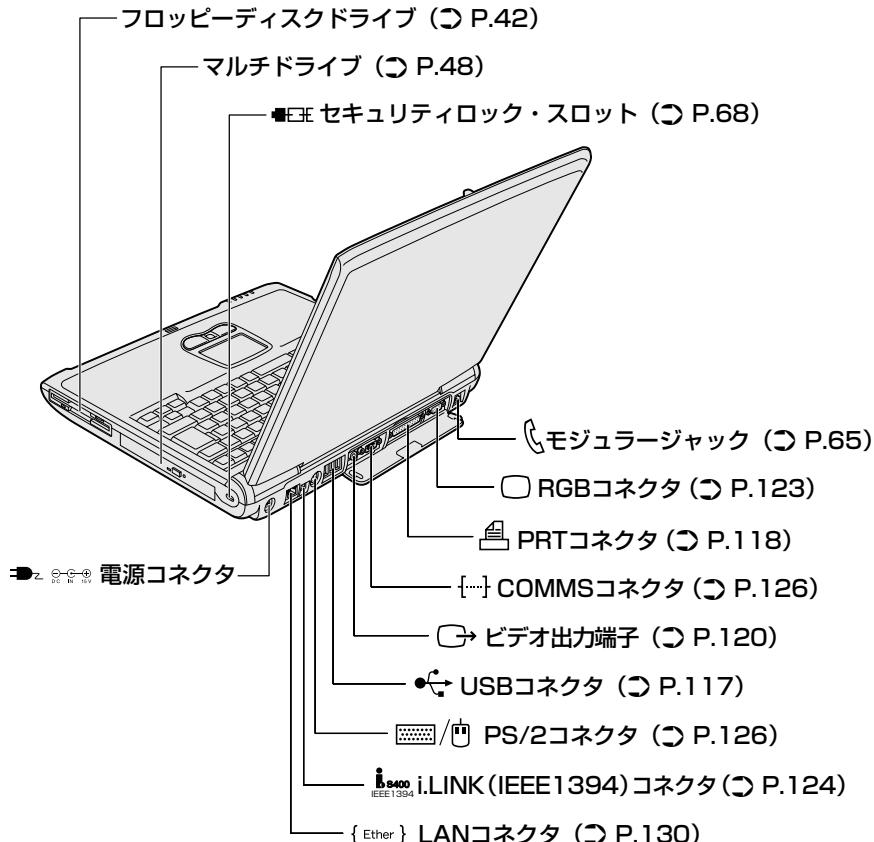


【拡大図 A】**【拡大図 B】**

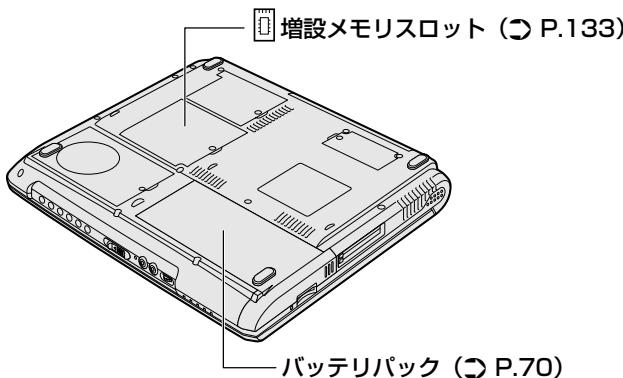
次の6つのボタンを、オーディオプレイボタンと呼びます。



2 背面図



3 裏面図



⚠ 注意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをAC電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

パソコン本体 / 電源コードの取り扱いと手入れ

- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
温度 5～35°C、湿度 20～80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）／ホコリの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所

-
- 使用中に本体の底面や AC アダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
 - 電源コードのプラグを長期間にわたって AC コンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にほこりを拭き取ってください。
-

仕様について

【電源コードの仕様】

本製品に同梱されている電源コードは、アメリカ合衆国、カナダ、日本の規格に準拠しています。

その他の地域で使用する場合は、別途電源コードを購入してください。

使用できる電圧（AC）は次のとおりです。

アメリカ合衆国 : 125V

カナダ : 125V

日本 : 100V

日本では必ず AC100V のコンセントで使用してください。

※取得規格は、アメリカ合衆国：UL 規格、カナダ：CSA、日本：電気用品安全法です。

【ACアダプタの仕様】

本製品に同梱されている AC アダプタは、海外でも使用できます。

インテル® Pentium® 4 プロセッサモデルの場合

入力 : AC100～240V、1.2～0.6A、50/60Hz

出力 : 15V、5A

モバイル インテル® Celeron® プロセッサモデルの場合

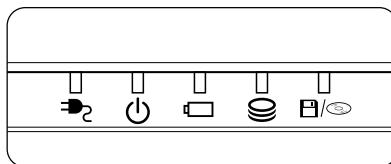
AC アダプタの仕様は次のとおりです。

入力 : AC100～240V、128～168VA、50/60Hz

出力 : 15V、4A

2 システムインジケータ

システムインジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。



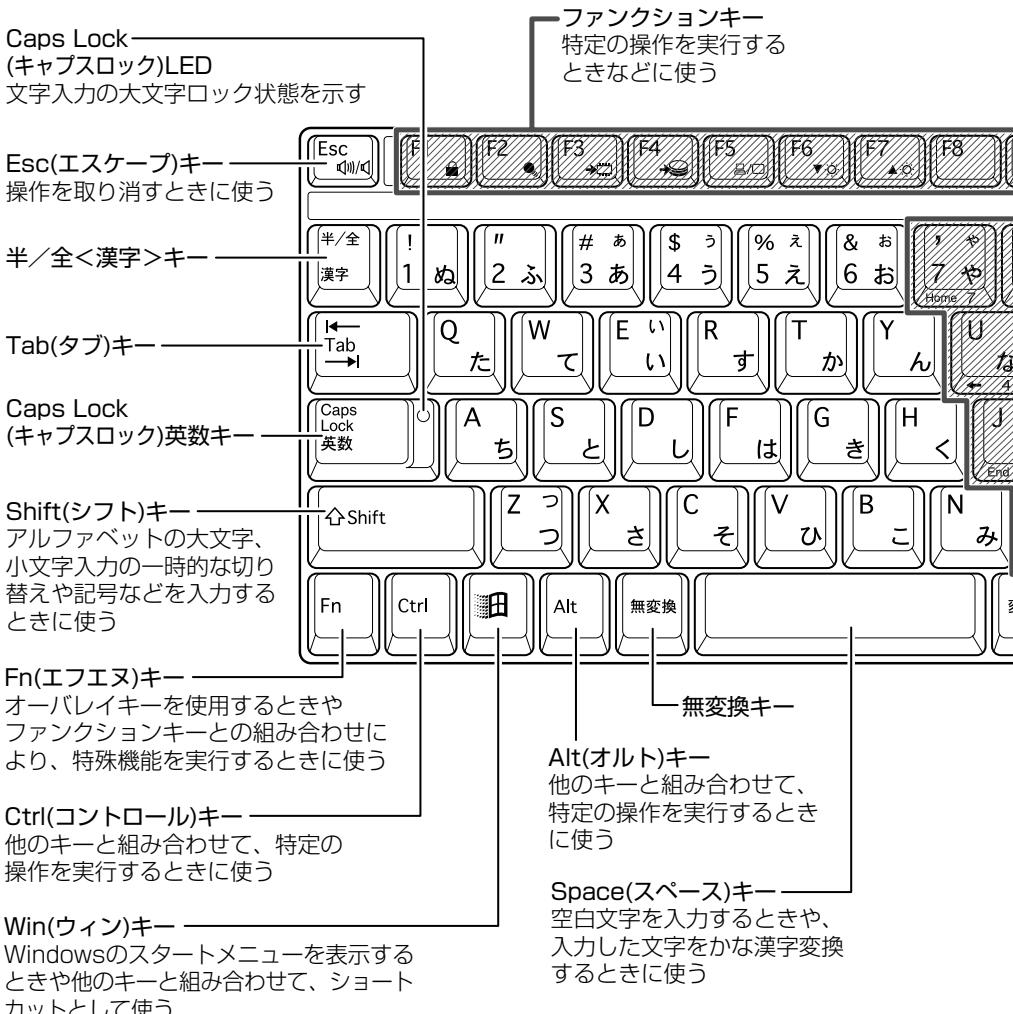
【システムインジケータ】

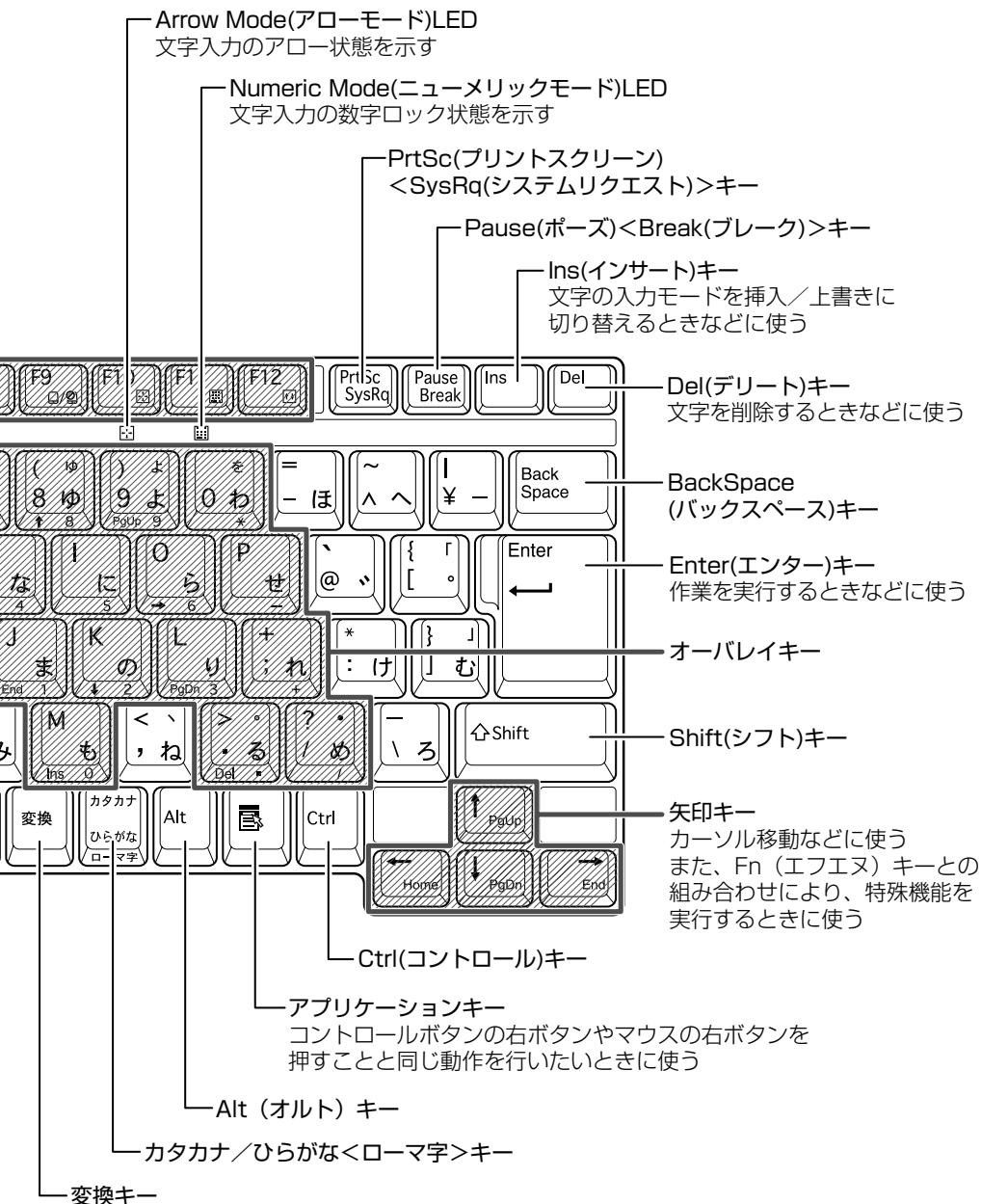
	DC IN LED	電源コードの接続 参照 『まずはこれから』
	Power LED	電源の状態 参照 『まずはこれから』
	Battery LED	バッテリの状態 参照 P.71
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている 参照 P.39
	FDD/CD-ROM LED	マルチドライブにアクセスしている 参照 P.42、49、90、100

3 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図





2) キーシフトインジケータの切り替え

キーシフトインジケータは、どんな文字が入力できる状態かを示します。

各インジケータの役割と切り替え方法は、次の表のようになっています。それぞれの状態がオンになっているとき、LED が点灯します。その場合、他の 2 つは解除して消灯してください。

【キーシフトインジケータ】

LED	切り替えキー	文字入力の状態
Caps Lock LED	(Shift)+(Caps Lock 英数)	大文字ロック状態 文字キーで英字の大文字が入力できます。
Arrow Mode LED	(Fn)+(F10)	アロー状態 オーバレイキーで、キーの前面左側に印刷されたカーソル制御ができます。
Numeric Mode LED	(Fn)+(F11)	数字ロック状態 オーバレイキーで、キーの前面右側に印刷された数字などの文字が入力できます。

それぞれの文字入力状態を解除するには、切り替えキーをもう 1 度押します。

3 キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

【**(Fn)**キーを使った特殊機能キー】

キー	内容
(Fn) + (Esc) 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。元に戻すときは、もう1度 (Fn) + (Esc) キーを押します。
(Fn) + (F1) 〈インスタント セキュリティ機能〉	画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 パスワードによる保護を設定（[画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで、[パスワードによる保護] または [再開時によくこそ画面に戻る] をチェック）しておくと、セキュリティを強化できます。解除するには、次の操作を行ってください。 ① [Shift] キーや [Ctrl] キーを押す、またはタッチパッドを操作する ② ユーザが複数の場合はユーザ名をクリックする ③ パスワード入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、 [Enter] キーを押す パスワードによる保護を設定していない場合は、 [Shift] キーや [Ctrl] キーを押す、またはタッチパッドを操作すると解除できます。
(Fn) + (F2) 〈省電力モードの設定〉	(Fn) + (F2) キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 (Fn) キーを押したまま、 (F2) キーを押すたびに、省電力モードが切り替わります。
(Fn) + (F3) 〈スタンバイ機能の実行〉	省電力モードが切り替わります。 (Fn) + (F3) キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックするとスタンバイ機能が実行されます。
(Fn) + (F4) 〈休止状態の実行〉	(Fn) + (F4) キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックすると、休止状態が実行されます。

キー	内容
(Fn)+(F5) 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 詳細について 参照▶「4章 5」
(Fn)+(F6) 〈ディスプレイの輝度を下げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F6)キーを押すたびに画面の輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn)+(F7) 〈ディスプレイの輝度を上げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F7)キーを押すたびに画面の輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn)+(F9) 〈タッチパッド オン／オフ機能〉	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度、(Fn)+(F9)キーを押します。 参照▶「本章 4-④」
(Fn)+(F10) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面左に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます（アロー状態）。アロー状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F10)キーを押します。
(Fn)+(F11) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面右に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます（数字ロック状態）。数字ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F11)キーを押します。 アプリケーション（Microsoft Excelなど）によっては異なる場合があります。
(Fn)+(F12) 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで↑↓←→キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F12)キーを押します。
(Fn)+〔↑〕 〈PgUp (ページアップ)〉	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、〔↑〕キーを押すと、前のページに移動できます。
(Fn)+〔↓〕 〈PgDn (ページダウン)〉	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、〔↓〕キーを押すと、次のページに移動できます。
(Fn)+〔←〕 〈Home (ホーム)〉	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、〔←〕キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
(Fn)+〔→〕 〈End (エンド)〉	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、〔→〕キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。

【キーを使ったショートカットキー】

キー	操作
 + 	[ファイル名を指定して実行] 画面を表示する
 + 	すべてをアイコン化する
 +  + 	すべてのアイコン化を元に戻す
 + 	『ヘルプとサポート』を起動する
 + 	[マイコンピュータ] 画面を表示する
 + 	ファイルまたはフォルダを検索する
 +  + 	他のコンピュータを検索する
 + 	タスクバーのボタンを順番に切り替える
 + 	[システムのプロパティ] 画面を表示する

【特殊機能キー】

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャの起動	 +  + 	[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー		現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	 + 	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。

コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、電源を切り、ACアダプタとバッテリパックを取りはずして、ただちに購入店、または保守サービスに点検を依頼してください。

4 タッチパッド

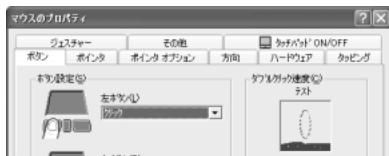
タッチパッドを、使いやすく設定できます。

1) タッチパッドを設定するには

タッチパッドやポインタの設定は、【マウスのプロパティ】で行います。

1 【マウスのプロパティ】の設定方法

- 通知領域の【タッチパッド】()アイコンをダブルクリックする
画面が表示されます。



- 各タブで機能を設定し、【OK】ボタンをクリックする

各機能の設定については、本節の以降の説明を参照してください。

【キャンセル】ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

2) タッピング機能

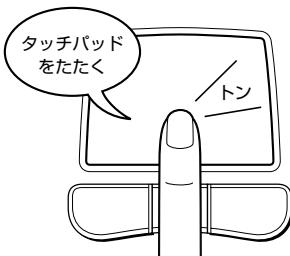
タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。

タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

1 タッピングの方法

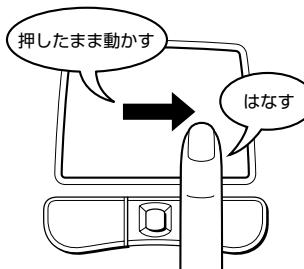
【クリック / ダブルクリック】

タッチパッドを1回軽くとクリック、
2回たたくとダブルクリックができます。



【ドラッグアンドドロップ】

タッチパッドを続けて2回たたき、
2回目はタッチパッドから指を離さずに
目的の位置まで移動し、指を離します。



2 タッピング機能を設定する

タッピングのいろいろな設定は、[タッピング] タブでできます。[タッピング] タブで設定できる機能は、次のようにになっています。



タッピング	チェックする (☑) と、タッピング機能が使用できます。続けてタッピングするときの速度は、スライダーを動かして調節します。
ドラッグロックの設定	[ドラッグロック] をチェックすると、タッピングでドラッグした場合、指を離してもドラッグ状態を保てます。[自動解除] を選択すると一定時間経ったらドラッグ状態を解除し、[タッピングまたはクリックで解除] を選択するとタッピングまたはクリックでドラッグ状態を解除します。 自動解除の時間は、スライダーを動かして調節できます。
キー入力時タップしない	チェックする (☑) と、キーボードから文字を入力している間はタッピング機能が効かなくなります。入力中に意図しない場所をクリックしてしまうのを防ぐことができます。

3 タッピング機能を便利に使う

[ジェスチャー] タブで設定します。

タッチパッドの右上、左上をタッピングしたときの動作や、スクロール機能を設定できます。



左コーナーの設定	タッチパッドの左上、右上をタッピングしたときの動作を設定できます。
右コーナーの設定	
ブラウザ補助機能を使う	チェックする (☑) と、タッチパッドの上端に指を合わせて左右に動かしたときに、ブラウザの「進む」「戻る」の動作を行うことができます。
スクロール機能を使う	チェックする (☑) と、タッチパッドの右端、下端に指を合わせて上下または左右に動かしたときに、スクロール機能を使用できます。

役立つ

操作集 ポインタの形や速度を変える

[マウスのプロパティ] では、ポインタの形や速さなどを変えることができます。

[ポインタ] タブでは形を、[ポインタオプション] タブでは速さとポインタを動かしたときの軌跡を設定できます。



3 その他の設定

[その他] タブは、タッチパッドの操作に合わせて音を鳴らしたり、タッチパッドで手書き入力をするなど、いろいろな設定ができます。



【サウンドフィードバック】

[使用する] をチェックすると、タッチパッドの操作に合わせてサウンドを鳴らすことができます。

[設定] ボタンをクリックすると、[サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ] 画面が表示されます。

[サウンド] タブの [プログラムイベント] で 「Alps Pointing Device Driver」 の各場面のサウンド設定を行ってください。

【トレイアイコン】

[タスクバーにアイコンを表示する] をチェックすると、通知領域に [タッチパッド] アイコン (■) が表示されます。

【IMEキャプチャー】

[使用する] をチェックすると、タッチパッドをIMEパッドの手書き入力エリアとして使用できます。

使用中は、ポインタが羽に変わります。使用中に右クリックすると入力エリアがクリアされ、左クリックすると使用が解除されます。

【イージーキャプチャーの設定】

イージーキャプチャー機能を使うと、ペイントを起動せずに簡単な絵を描いて、起動中のアプリケーションに貼り付けることができます。

イージーキャプチャー機能を使用する場合は、あらかじめ [ジェスチャー] タブの [左コーナーの設定] または [右コーナーの設定] で 「イージーキャプチャー」 を指定しておきます。

【イージーランチャーの設定】

イージーランチャー機能とは、ランチャー画面のボタンをクリックするだけで、「最小化」「閉じる」などの操作を実行したり、登録したアプリケーションやファイルを起動できる機能です。

イージーランチャー機能を使用する場合は、通知領域の【タッチパッド】アイコン(■)を右クリックし、表示されるメニューから【イージーランチャー】をクリックします。または、あらかじめ【ジェスチャー】タブの【左コーナーの設定】または【右コーナーの設定】で「イージーランチャー」を指定しておきます。

4) タッチパッドを無効／有効にするには

【タッチパッド ON/OFF】タブでは、タッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。



【タッチパッドのON/OFF】

【有効】をチェックするとタッチパッドが使用可能になり、【無効】をチェックするとタッチパッドからの操作ができなくなります。

タッチパッドの無効／有効は、**(Fn)+(F9)**キーでも切り替えることができます。

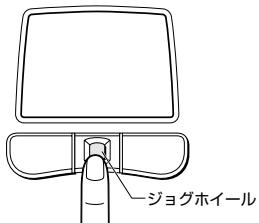
(Fn)+(F9)キーでタッチパッドの操作を有効にした場合、タッチパッドの操作中にカーソルの動きが不安定になることがあります。そのような場合は、一度タッチパッドから手を離してください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

役立つ 操作集

オートスクロール

ジョグホイールを押すと、自動的に画面がスクロールされます。もう1度ジョグホイールを押すと、通常の状態に戻ります。

アプリケーションによっては対応していない場合もあります。



ヘルプの起動方法

- 1 [マウスのプロパティ] 画面を表示し、画面右上の  をクリックする
マウスポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい場所をクリックする
説明文がポップアップで表示されます。

5 ディスプレイ

本製品には表示装置としてTFT方式カラー液晶ディスプレイ（1024×768ドット）が内蔵されています（SXGA+モデルは1400×1050ドット）。ドットは点の数を表します。テレビと同じようにプラウン管を発光させて表示する、CRTディスプレイを接続して使用することもできます。

 CRTディスプレイの接続について「4章6」

表示について

TFT方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られておりますが、ごく一部に非点灯、常時点灯などの表示が存在することがあります。故障ではありませんので、あらかじめ了承してください。

1) ディスプレイの設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな表示を設定できます。

1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

【インテル® Pentium® 4 プロセッサモデルの場合】

1920×1440 ドット	65,536 色
1600×1200 ドット	1,677 万色
1400×1050 ドット	1,677 万色
1280×1024 ドット	1,677 万色
1024×768 ドット	1,677 万色
800×600 ドット	1,677 万色

1600×1200 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

【モバイル インテル® Celeron® プロセッサモデルの場合】

1600×1200 ドット	65,536 色
1280×1024 ドット	65,536 色
1024×768 ドット	1,677 万色
800×600 ドット	1,677 万色

1280×1024 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

メモ

1,677万色はディザリング表示です。

ディザリングとは、1ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法です。

2 デスクトップ表示を変える

デスクトップのデザインやスクリーンセーバなどを、[コントロールパネル] の [デスクトップの表示とテーマ] 画面で変更できます。

1 [コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリックする

[デスクトップの表示とテーマ] 画面が表示されます。



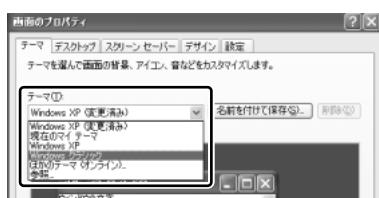
デスクトップのテーマを変える

テーマを選んで画面の背景、アイコン、音などを変更できます。

1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [テーマを変更する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [テーマ] タブの [テーマ] で ボタンをクリックし、目的のテーマを選択する



画面は、[Windows クラシック] を選択する場合の表示例です。

3 [OK] ボタンをクリックする

壁紙を変える

デスクトップの壁紙（背景）を、Windowsに用意されているイラストや模様に変更することができます。ファイルの場所を指定すると、好きなイラストに変更できます。

1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [デスクトップの背景を変更する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [デスクトップ] タブの [背景] で、目的の画像を選択する



パソコンの画面の中にプレビューが表示されます。

画面は [草原] を選択する場合の表示例です。

- 指定できる画像ファイル

bmp、gif、jpeg、html ファイルなどが使用できます。

- 画像の位置を指定する

画像ファイルの種類によっては、デスクトップに対して、画像の表示位置を指定できます。

[表示位置] で [中央に表示]、[並べて表示]、[拡大して表示] から選択します。

3 [OK] ボタンをクリックする

スクリーンセーバを使う

好みのスクリーンセーバを選択し、スクリーンセーバを表示させるまでの時間を設定できます。

1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [スクリーンセーバーを選択する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [スクリーンセーバー] タブの [スクリーンセーバー] で ▾ ボタンをクリックし、目的のスクリーンセーバを選択する



画面は [Windows XP] を選択する場合の表示例です。

スクリーンセーバによっては、パソコンの絵の中にプレビューが表示されます。[プレビュー] ボタンをクリックすると、画面全体にスクリーンセーバのプレビューが表示されます。プレビューを中止したい場合は、タッチパッドを操作してください。

- [待ち時間] の時間（分数）を設定する

例えば、「5」に設定すると、パソコンの電源を入れた状態で5分間、タッチパッドを操作せず、キーボードから入力を行わなかったとき、スクリーンセーバが表示されます。

- [パスワードによる保護]

チェックすると、スクリーンセーバにパスワードを設定することができます。

3 [OK] ボタンをクリックする

動作中のスクリーンセーバを解除するには、Shift キーや Ctrl キーを押すか、タッチパッドの操作を行ってください。

スクリーンセーバにパスワードを設定している場合は、パスワードの入力画面が表示されます。

ログオンパスワードを入力してください。

解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きく、または小さく表示されます。

1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [画面解像度を変更する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [設定] タブの [画面の解像度] で、解像度を変更する



3 [OK] ボタンをクリックする

ウィンドウの色を変える

ウィンドウ、アクティブタイトルバー、メッセージボックスの配色を変更できます。

- [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- [デザイン] タブの [配色] で、 ボタンをクリックし、配色を選択する



プレビューが表示されます。
画面は、[シルバー] を選択する場合の表示例です。

3 [OK] ボタンをクリックする

液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏向フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。

表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。

- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。

液晶表示素子は、ガラス板間に液晶を配向処理して注入しています。そのため、圧力がかかると配向が乱れ、元に戻らなくなる場合があります。

サイドライト用 FL 管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにサイドライト用 FL 管（冷陰極管）が内蔵されています。サイドライト用 FL 管（冷陰極管）は、使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。有償にて交換いたします。

6 ハードディスクドライブ

内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。

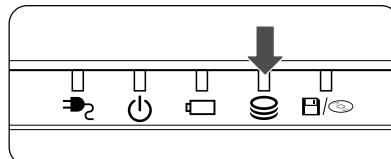
PC カードタイプ (TYPE II) のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い 操作にあたって

- Disk LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起ったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクや CD-R、CD-RW などに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD-R、CD-RW などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。
- 磁石、スピーカなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

① ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk LED が点灯します。



PC カードタイプや i.LINK (IEEE1394) 対応機器などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk LED は点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。万一故障した場合に備え、バックアップを取ることを推奨します。

7 サウンド機能

本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

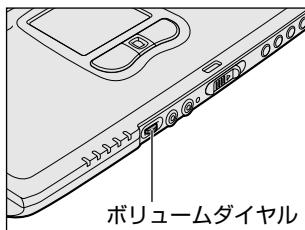
1 スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。

スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、またはWindowsの「マスタ音量」で調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには右に、小さくしたいときには左に回します。



2 マスタ音量で調整する

再生したいファイルごとに音量を調節したい場合、次の方法で調節できます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
[マスタ音量] 画面が表示されます。

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。



【音楽／音声を再生するとき】

「マスタ音量」の各項目では次の音量が調整できます。

マスタ音量	全体の音量を調整する
WAVE	MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽 CD (Windows Media Player の場合)、DVD-ROM、DVD-Video など
CD オーディオ	音楽 CD (Windows Media Player 以外の場合)

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『マスタ音量のヘルプ』を確認してください。

2 音楽／音声の録音レベルを調整する

録音レベルの調整は、次のように行います。

1 パソコン上で録音するとき

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
[マスタ音量] 画面が表示されます。
- 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
- 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする
- 4 [表示するコントロール] をチェックする
[マイク] がチェックされていることを確認します。
- 5 [OK] ボタンをクリックする
- 6 [録音コントロール] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする
[マイク] : 外部マイクから録音するとき
- 7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する
同時に2つのデバイスを選択することはできません。
録音したい音楽／音声が「マスタ音量」の [WAVE] 対応の場合、録音するときも [WAVE] の音量により影響を受けます。

8 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクには、文書や表などのデータを保存することができます。

1 フロッピーディスク

フロッピーディスクについて説明します。

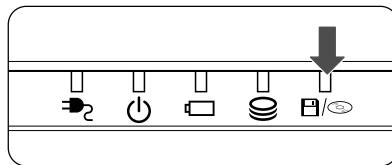
1 使用できるフロッピーディスクの種類

本製品で使用できるフロッピーディスクには3種類あり、それぞれの機能は次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1枚に保存できる容量	読み出し / 書き込み	フォーマット
2DD タイプ	720KB	可	不可
2HD タイプ	1.2MB	可	不可
2HD タイプ	1.44MB	可	可

2 フロッピーディスクドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、フロッピーディスクとデータをやり取りしているときは、FDD/CD-ROM □/○ LEDが点灯します。



2 フロッピーディスクのセットと取り出し

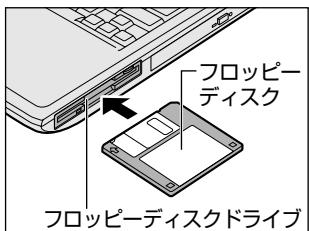
フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入することを「フロッピーディスクをセットする」といいます。

注意

パソコン本体の電源が入っている場合で、FDD/CD-ROM □/○ LEDが点灯中は、電源を切ったり、フロッピーディスクドライブのイジェクトボタンに触れたり、パソコン本体を動かしたりしないでください。
フロッピーディスクのデータやフロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。

1 フロッピーディスクのセット

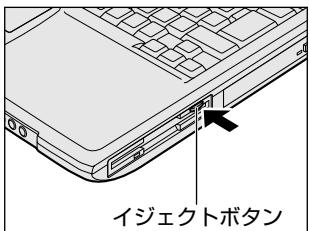
- 1 フロッピーディスクの隅に示されている矢印の向きにあわせて挿入する



「カチッ」と音がするまで挿入します。正しくセットされるとイジェクトボタンが出てきます。

2 フロッピーディスクの取り出し

- 1 イジェクトボタンを押す



フロッピーディスクが少し出でます。そのまま手で取り出します。

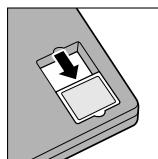
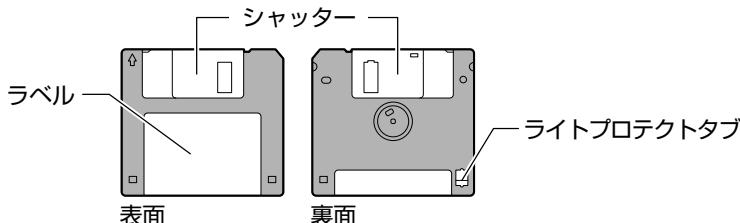
3 フロッピーディスクの内容を確認する

- 1 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。
- 2 [3.5 インチ FD (A:)] をダブルクリックする
[3.5 インチ FD (A:)] 画面が開き、セットしたフロッピーディスクの内容が表示されます。

3 フロッピーディスクを使う前に

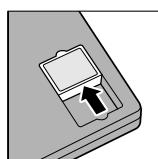
1 ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを動かすことにより、誤ってデータを消さないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。この状態のフロッピーディスクは、データの書き込みはできず、読み取りしかできません。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りも可能です。

2 フォーマットとは

新品のフロッピーディスクは、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。

お願い

- フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

次のフロッピーディスクは、フォーマットしてから使用してください。

- フォーマットされていないもの
- Windows以外のシステムでフォーマットされたもの

フォーマットには、「クイックフォーマット」と「MS-DOSの起動ディスクを作成する」というオプションがあります。必要に応じて設定してください。

オプションを何も設定しないでフォーマットを開始すると、通常のフォーマットが行われます。

すべてのファイルが消去され、基本情報が書き込まれます。ディスクの損傷があるかどうかもチェックされます。

【クイックフォーマット】

以前にWindowsでフォーマットしたことのあるフロッピーディスクに実行できます。クイックフォーマットを行うと、すべてのファイルが消去されますが、基本情報の書き込みなどは行われません。フロッピーディスクが壊れているおそれのある場合は、クイックフォーマットは行わないでください。

【MS-DOSの起動ディスクを作成する】

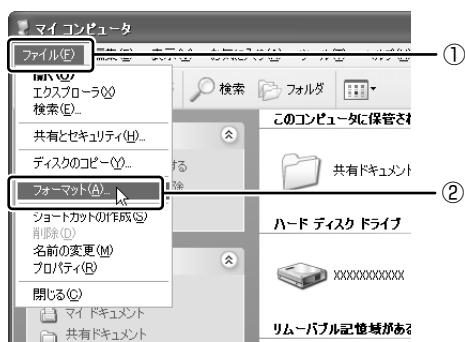
フォーマットまたはクイックフォーマットを行った後、MS-DOSの起動ディスクとして必要な情報をフロッピーディスクに書き込みます。作成を行うと、ファイルや基本情報などのすべての情報が消去されます。

3 フォーマット方法

Windowsでのフォーマット方法を簡単に説明します。詳細については、『ヘルプとサポート』を確認してください。

- 1 フロッピーディスクドライブに、フォーマットするフロッピーディスクをセットする
- 2 [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする
[マイコンピュータ] 画面が表示されます。
- 3 [ 3.5インチ FD (A:)] をクリックする
[3.5インチ FD (A:)] が選択され、アイコンの色が反転します。

4 メニューバーの【ファイル】をクリックし①、表示されたメニューから【フォーマット】をクリックする②



アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。

【フォーマット 3.5 インチ FD (A:)】画面が表示されます。

5 必要に応じて【フォーマットオプション】を設定し、【開始】ボタンをクリックする

クリックフォーマットを行う場合は、[クリックフォーマット] をチェックしてから、【開始】ボタンをクリックしてください。

メッセージが表示されます。

6 メッセージの内容を確認し、【OK】ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。初めてフォーマットするフロッピーディスクの場合、多少時間がかかります。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

7 メッセージの内容を確認し、【OK】ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順 5 から実行します。

フォーマットを終了する場合は、【フォーマット 3.5 インチ FD (A:)】画面で【閉じる】ボタン (X) をクリックしてください。

フロッピーディスクドライブの取り扱い

市販のクリーニングディスクを使って、1ヶ月に1回を目安にクリーニングしてください。

フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスクは消耗品です。傷がついた場合は交換してください。

フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起つたり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作つて保管するようにしてください。
- フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめ了承してください。
- シャッターポートを開けて磁性面を触らないでください。
汚れると使用できなくなります。
- スピーカーなど強い磁気を発するものに近づけないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 直射日光に当てたり、高温のものに近づけないでください。
- 本やノートなど重いものを上に置かないでください。
- 使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

環境	使用時	保管時
温度	5～35℃	4～53℃

- ラベルは正しい位置に貼ってください。
貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。
- ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。
- 保管の際は、プラスチックケースに入れてください。
- 食べ物、タバコ、消しゴムのカスなどの近くにフロッピーディスクを置かないでください。
- 3.5型フロッピーディスクは当社の次の製品を使用してください。
他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかつたり、フロッピーディスクドライブの寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

製品番号：M4293	2HD 形式
製品番号：M4216	2DD 形式

9 マルチドライブ

本製品にはマルチドライブが内蔵されています。

『安心してお使いいただくために』に、CD／DVD を使用するときに守ってほしいことが記述されています。

CD／DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

お願い マルチドライブの操作にあたって

- DVD-Video 再生時は、AC アダプタを接続した状態で使用することを推奨します。また、使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちするケースがあります。
- 携帯電話をマルチドライブに近づけると、マルチドライブで再生した音声にノイズが混入したり、映像の再生が正常に行われない可能性があります。このような場合には、携帯電話をマルチドライブから遠ざけてください。

1) CD／DVD について

CD、DVD について説明します。

1 使用できるCD

読み込みできる CD は、次の種類です。

- 音楽用 CD
8cm または 12cm の音楽用 CD が聴けます。
- フォト CD
普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録されています。
- CD-ROM
使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのものが使用できます。
- CD エクストラ
記録領域を音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

書き込みできる CD は次の種類です。

- CD-R

書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。

CD-R メディアに書き込む際には、8 倍速対応 CD-R メディアを使用してください。

- CD-RW

CD-RW メディアに書き込む際には、2 / 4 倍速対応（マルチスピード）CD-RW メディアまたは High-Speed CD-RW（4 ~ 10 倍速）対応メディアを使用してください。High-Speed CD-RW 対応メディアを使用した場合の書き込み速度は最大 8 倍速になります。

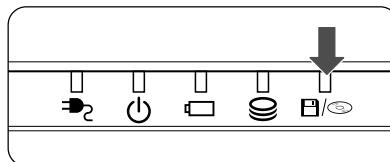
2 使用できるDVD

読み込みできる DVD は、次の種類です。

- DVD-ROM
- DVD-Video（映像再生用です。映画などが収録されています）

3 マルチドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、マルチドライブが動作しているときは、FDD/CD-ROM B/CD LED が点灯します。

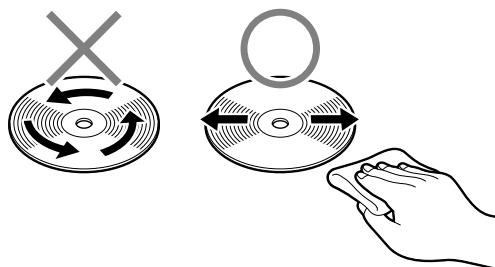


CD / DVD の取り扱いと手入れ

CD / DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- CD / DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD / DVD を読み込むことができなくなります。
- CD / DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD / DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD / DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD / DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD / DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。

- CD／DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。
円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



10 SD メモリカード

SD メモリカードを SD メモリカードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

1) SD メモリカードについて

SD メモリカードについて説明します。

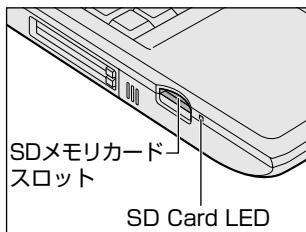
本製品の SD メモリカードスロットでは、マルチメディアカードは使用できません。

お願い SD メモリカードの使用にあたって

- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

1 SD メモリカードスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、SD メモリカードとデータをやり取りしているときは、SD Card LED が点灯します。



2 SD メモリカードのセットと取り出し

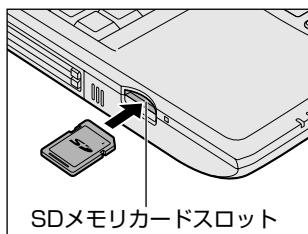
SD メモリカードを SD メモリカードスロットに挿入することを「SD メモリカードをセットする」といいます。

⚠ 注意

- SD Card LED が点灯中は、電源を切ったり、SD メモリカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。
データや SD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- SD メモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SD メモリカードのデータが壊れるおそれがあります。

1 セット

1 SD メモリカードのラベルを貼られた面を上にして、SD メモリカードスロットに挿入する



奥まで挿入します。

2 取り出し

1 SD メモリカードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [TOSHIBA SD Memory Card Drive- ドライブ (E:) を安全に取り外します] (標準値) をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 SD メモリカードを押す

カードが少し出でてきます。そのまま手で取り出します。

3 SDメモリカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

- 1 [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする
[マイコンピュータ] 画面が表示されます。

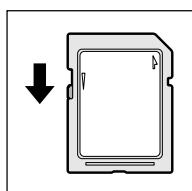
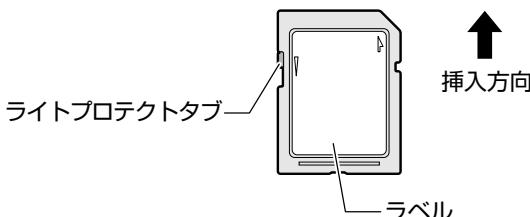
- 2 [リムーバブルディスク (E:)] (標準値) をクリックする

[リムーバブルディスク (E:)] (標準値) 画面が開き、セットした SD メモリカードの内容が表示されます。

3 SD メモリカードを使う前に

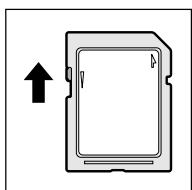
1 ライトプロテクトタブ

SD メモリカードは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを挿入とは反対の方向へ移動させます。この状態の SD メモリカードには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを挿入と同じ方向へ移動させます。この状態の SD メモリカードには、データの書き込みも読み取りもできます。

2 SDメモリカードのフォーマット

フォーマットとは、SDメモリカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SDメモリカードを使えるようにすることです。

新品のSDメモリカードは、SDメモリカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

再フォーマットをする場合は、SDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

フォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

⚠ 注意

- Windows上（[マイコンピュータ]画面）でSDメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。

お願い

- 再フォーマットを行うと、そのSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したSDメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

SDメモリカードの取り扱い

SDメモリカードを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- SDメモリカードに保存しているデータは、万一故障が起つたり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作つて保管するようにしてください。
SDメモリカードに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- SDメモリカードの接触面（コンタクトエリア）を触らないでください。
ごみや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電気的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、SDメモリカードに付属のケースに入れてください。
- SDメモリカードが汚れたときは、乾いた柔らかい素材の布で拭いてください。
- 新たにラベルやシールを貼らないでください。

11 ワンタッチボタン

本製品には、簡単にインターネットブラウザソフトやメールソフトを起動することができる、2つのワンタッチボタンがあります。

各ボタンを押すと設定されているアプリケーションが起動します。

起動するアプリケーションは、「東芝コントロール」で自由に変更できます。購入時に各ボタンに設定されているアプリケーションは次のとおりです。

- インターネットボタン Internet Explorer
- メールボタン Microsoft Outlook
- 東芝コンソールボタン 東芝コンソール 参照 ➔ 「本節 2」

【パソコン本体の電源が入っていないとき】

電源が入り、Windows 起動後、設定されているアプリケーションが起動します。

【スタンバイ状態／休止状態のとき】

スタンバイ状態／休止状態を実行する直前の状態が再現されてから、設定されているアプリケーションが起動します。

1 ボタンを割り当てるアプリケーションを変更する

各ボタンを押して起動するアプリケーションを、自由に設定することができます。ここでは、東芝コンソールボタンに「ペイント」を設定する例で変更方法を説明します。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [東芝コントロール] をクリックする
[東芝コントロールのプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [ボタン] タブで [東芝コンソールボタン] をクリックする
- 4 [プログラムの選択] で [指定したプログラムを起動する] をチェックし①、[指定] ボタンをクリックする②



購入時は、次のように設定されています。

[通常使用するブラウザを起動する] : Internet Explorer の起動
[標準に設定された電子メールプログラムを起動する]

: Microsoft Outlook の起動。

[指定] 画面が表示されます。

5 [アプリケーション] ボタンをクリックする

[アプリケーションエクスプローラ] 画面が表示されます。

6 [フォルダ] の [プログラム] をダブルクリックする



[プログラム] フォルダの内容が表示されます。

7 [アクセサリ] をクリックしてから① [アプリケーション] の [ペイント] アイコン () をクリックし②、[OK] ボタンをクリックする

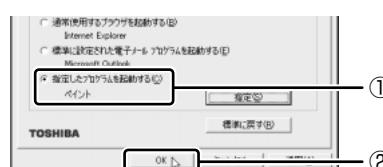


[指定] 画面に戻ります。

8 [アプリケーション名] にペイントが設定されていることを確認し、 [OK] ボタンをクリックする

[東芝コントロールのプロパティ] 画面に戻ります。

9 設定した東芝コンソールボタンの下に「ペイント」と表示されてい ることを確認し①、[OK] ボタンをクリックする②



東芝コンソールボタンにペイントが設定されます。

2 東芝コンソール

東芝コンソールを使うと、本製品に用意されているさまざまなアプリケーションを、簡単に起動できます。

東芝コンソールボタンを押すか、または [スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝コンソール] → [東芝コンソール] を選択して起動してください。

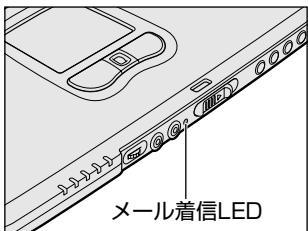
次の画面が表示されます。



左画面①で希望のカテゴリをクリックすると、右画面②にアイコンが表示されます。起動したいアプリケーションのアイコンをクリックしてください。

12 新着メールを LED で確認する

メールソフトを起動しなくても、設定した日時に自動的に Windows を起動して新着メールが届いているかどうかチェックできます。これを新着メールチェック機能といいます。



新着メールが届いていると、メール着信 LED が緑色に点灯します。

新着メールチェック機能を使用するには、あらかじめ設定が必要です。

新着メールチェックを行うには、電話料金およびプロバイダへの接続料金がかかります。

【新着メールチェック機能を使用できる状態】

新着メールチェック機能を使用するときは、必ず AC アダプタを使用し、本製品と電話回線をモジュラーケーブルで接続してください。

新着メールチェック機能はパソコンが次の状態のときに使用できます。

- 電源が入っているとき
- スタンバイ機能を実行しているとき
- 休止状態のとき

スタンバイ機能を実行中や休止状態にしているときは、設定した時間にパソコンが自動的に起動し、新着メールをチェックします。

新着メールチェック機能は、メールソフトの設定が完了している場合に使用できます。メールソフトの設定については、契約しているプロバイダからの資料を確認してください。

1 新着メールチェックの設定をする

新着メールチェック機能を使用するために必要な、各種設定について説明します。

1 Windowsログオンパスワードを設定する

新着メールチェック機能を設定するには、Windows のログオンパスワードの入力が必要です。あらかじめ Windows のログオンパスワードを設定しておいてください。

参照 → Windows のログオンパスワードについて『基本をマスター 4 章』

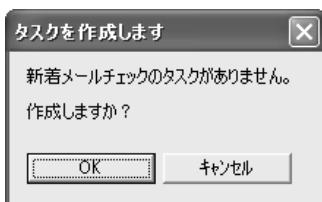
2 [メール]アイコンを通知領域に表示する(新着メールチェック機能を開始する)

新着メールチェック機能は、「メール着信ユーティリティ」で設定します。

「メール着信ユーティリティ」は次の手順で起動します。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする

- 2 [新着メールチェックのスケジュール設定] をクリックする



この操作を初めて行った場合、「タスクを作成します」画面が表示されます。

次の手順を行ってください。

- ① 表示される内容を確認して、[OK] ボタンをクリックする

[アカウント パスワードを設定してください] 画面が表示されます。

- ② [パスワード] と [パスワード確認入力] の 2 カ所に、Windows のログオンパスワードを入力する

Windows のログオンパスワードを設定していない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックして、「メール着信ユーティリティ」を終了してください。Windows のログオンパスワードを設定したうえで、もう 1 度「メール着信ユーティリティ」を起動してください。

- ③ [OK] ボタンをクリックする

[新着メールチェックのスケジュール設定] 画面が表示されます。

- 3 [基本設定] タブで [実行する (指定された時刻に新着メールのチェックを行う)] をチェックする (☑)

- 4 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

- 5 [基本設定] タブで [コンピュータ起動時に常駐する] をチェックする (☑)

チェックしておくとパソコン起動時に自動的に [メール] アイコン (✉) が通知領域に表示され、新着メールチェック機能が開始できるので便利です。

- 6 [OK] ボタンをクリックする

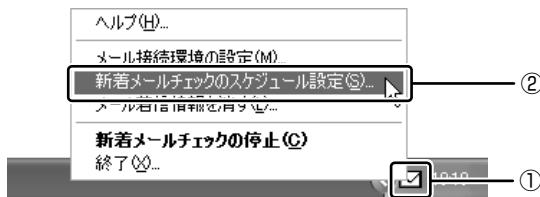
通知領域に [メール] アイコン (✉) が表示されます。

続けて新着メールチェックのスケジュールを設定してください。

3 新着メールチェックのスケジュールを設定する

新着メールチェックを開始する日や時間を設定します。

- 通知領域の【メール】アイコン(✉)を右クリックし①、表示されたメニューから【新着メールチェックのスケジュール設定】をクリックする②



- 【基本設定】タブで【スケジュール】を設定する



- 【開始日】でチェックを開始する日を設定する
ボタンを押すとカレンダーが表示されますので、開始したい日をクリックしてください。
- 【継続日数】でチェックを続ける期間を設定する
最大30日まで設定できます。
- ③何時に新着メールチェックを行うか設定する
1日に最大3回まで設定できます。チェックしたい回数だけチェックボックスをチェックします(✓)。
時間を設定するには、設定したい【時間】【分】にポインタをあわせてクリックします。数字が反転表示しますので、ボタンで設定します。



- 【詳細設定】タブで【タスクの実行時にスリープを解除する】と【レジューム後ハイバネーションする】をチェックする

スタンバイ機能を実行中、または休止状態のときに新着メールチェック機能を使用するときにチェックします。

【レジューム後ハイバネーションする】をチェックすると、新着メールチェック後に、自動的に休止状態になります。

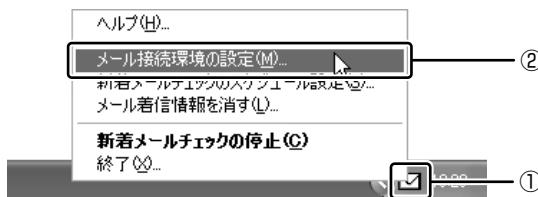
4 [OK] ボタンをクリックする

4 新着メールチェックの接続環境を設定する

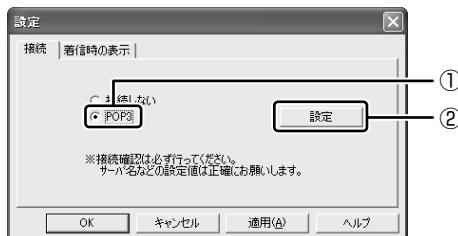
初めて新着メールチェック機能を使用するときは、メールソフトの接続環境の設定が必要です。

新着メールチェック機能は新着メールの有無だけを確認できます。メールの内容を確認することはできません。メールの内容を確認するには、使用しているメールソフトで送受信を行う必要があります。

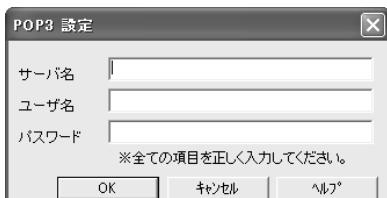
- 通知領域の【メール】アイコン(✉)を右クリックし①、表示されたメニューから【メール接続環境の設定】をクリックする②



- [接続] タブで [POP3] をチェックし①、[設定] ボタンをクリックする②



3 必要な項目を入力する



プロバイダから指定されている
[サーバ名] [ユーザー名] [パスワード] を入力してください。

4 [OK] ボタンをクリックする

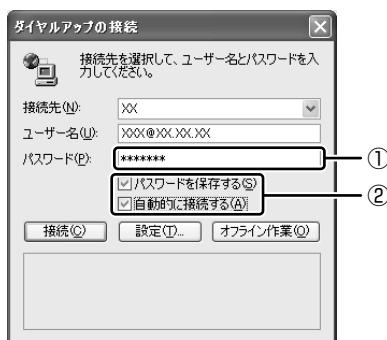
5 [設定] 画面で [OK] ボタンをクリックする

5 インターネットへの接続の設定

- 1 AC アダプタとモジュラーケーブルを接続する
- 2 [コントロールパネル] を開き、[ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 3 [インターネットオプション] をクリックする
[インターネットのプロパティ] 画面が表示されます。
- 4 [接続] タブで [通常の接続でダイヤルする] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
- 5 Internet Explorer を起動する

参照 Internet Explorer の起動方法 『基本をマスター 2 章』

- 6 [ダイヤルアップの接続] 画面で、[パスワード] にパスワードを入力し①、[パスワードを保存する] と [自動的に接続する] をチェックする② ()



- 7 [接続] ボタンをクリックする

一度インターネットに接続して、設定を保存します。[キャンセル] ボタンや [閉じる] ボタン () をクリックすると設定は保存されません。インターネットに接続されると、[ダイヤルアップの接続] 画面が消えます。

- 8 インターネットへ接続を続ける必要がない場合、Internet Explorer の [閉じる] ボタン () をクリックする
- 9 [今すぐ切断する] をクリックする
インターネットへの接続が終了します。

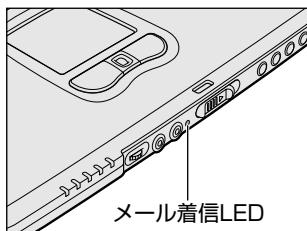
6 パソコンを起動せずに新着メールチェックをする

パソコンが起動していないときに、新着メールチェック機能を使うには、スタンバイを実行するか、休止状態にしてください。

参照 ➤ スタンバイの実行、休止状態について「2章 3」

2 新着メールを確認する

設定したスケジュールに従って、新着メールチェックが行われます。



新着メールがあると、メール着信 LED が緑色に点灯します。

1 メール着信 LED を消す

メールソフトを起動してメールの内容を確認した場合、新着メールをすべて既読にしてもメール着信 LED は消えません。この場合、次の方法でメール着信 LED を消してください。

- 通知領域の【メール】アイコン()を右クリックし、表示されるメニューから【メール着信情報を消す】をクリックする
メール着信 LED が消えます。

3 新着メールチェックを停止する

1 新着メールチェック機能を一時停止する

- 通知領域の【メール】アイコン()を右クリックし、表示されるメニューから【新着メールチェックの停止】をクリックする
アイコンが()に変わり、新着メールチェック機能を一時的に停止します。

2 新着メールチェック機能を再開する

- 1 通知領域の【メール】アイコン（✉）を右クリックし、表示されるメニューから【新着メールチェックの開始】をクリックする
- 2 表示されるメッセージを確認し、【OK】ボタンをクリックする
アイコンが（✉）に変わり、設定したスケジュールに従って新着メールチェックを再開します。

3 新着メールチェック機能を終了する

- 1 通知領域の【メール】アイコン（✉）を右クリックし、表示されるメニューから【終了】をクリックする
アイコンの表示が消えます。
- 2 表示されるメッセージを確認し、【OK】ボタンをクリックする
この操作を行ったあと、再び新着メールチェック機能を使用したいときは、「本節①-2」を確認してください。

13 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。
 - 分岐アダプタとは
1つの電話回線に電話とパソコンなど複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分ける機器。
 - 回線切換器とは
1つの電話回線に複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分け、自動的に接続を切り替える機器。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2002年5月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく
変更できない場合があります。

1 設定方法

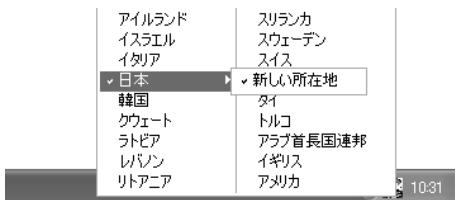
- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA Internal Modem] → [Region Select Utility] をクリックする
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン () が通知領域に表示されます。



- 2 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。

現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。



- 3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

[地域名を選択した場合]

[新しい場所設定作成] 画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、[電話とモデムのオプション] 画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。

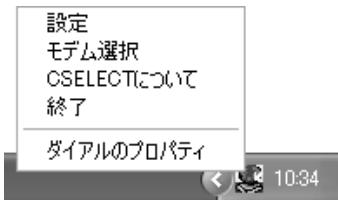
新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

[所在地情報名を選択した場合]

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。
選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

2 その他の設定

- 1 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン（）を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行なわれます。
地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する	地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[電話とモデムのオプション] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【モデム選択】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【ダイアルのプロパティ】

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面を表示します。

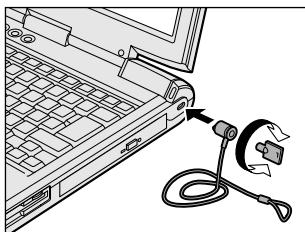
14 セキュリティロック

セキュリティロック・スロットに、チェーンなどを接続して、盗難を防止します。

セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを、購入店に確認してください。

1 セキュリティロック用機器の取り付け

- 1 セキュリティロック・スロットにセキュリティロック用の機器（別売り）を接続する



2章

バッテリ駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリ使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

-
- 1 バッテリについて 70
 - 2 省電力の設定をする 77
 - 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 82

1 バッテリについて

パソコン本体には、バッテリパックが取り付けられています。

バッテリを充電して、バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリパックを取り付けます。本製品を初めて使用するときは、バッテリを充電してから使用してください。

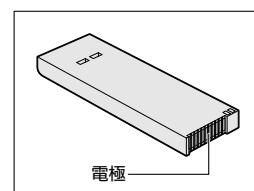
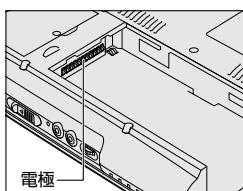
『安心してお使いいただくために』に、バッテリパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠ 警告

- バッテリパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリ（TOSHIBA バッテリパック:PABAS011）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがありますため発煙、火災のおそれがあります。

⚠ 注意

- バッテリパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- 別売りのバッテリパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。
お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- バッテリ駆動で使用しているときは、バッテリの残量に十分注意してください。
バッテリ（バッテリパック、時計用バッテリ）を使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。
- バッテリパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- 本体側の電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

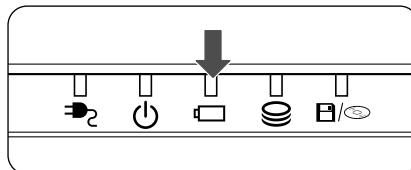


1 バッテリ充電量を確認する

バッテリ駆動で使う場合、バッテリの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが緑色に点灯すれば充電完了です。



バッテリ駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリの充電が必要です。Battery LEDは次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	<ul style="list-style-type: none"> ・バッテリが接続されていない ・ACアダプタが接続されていない ・バッテリ異常

2 通知領域の【省電力】アイコンで確認する

通知領域の【省電力】アイコン（）の上にポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。

このときバッテリ充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリ駆動で使用している場合には、バッテリ動作予想時間も表示されます。



参照 ➔ 省電力設定について「本章 2」

1ヶ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリ駆動を行なないと、バッテリ充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリ充電量が減少したときは、Battery □ LED や [省電力] アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に1度は再充電することを推奨します。

3 バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery □ LED がオレンジ色に点滅する（バッテリの減少を示しています）
- バッテリのアラームが動作する

東芝省電力ユーティリティの [アラーム] タブで設定すると、バッテリの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ①パソコン本体にACアダプタを接続し、電源を供給する
- ②電源を切ってから、フル充電のバッテリパックを取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリ減少の警告が起っても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切れます。

長時間使用しないでバッテリが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery □ LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。

時計用バッテリの充電は、ACアダプタを接続しているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【充電完了までの時間】

状態	時計用バッテリ
電源 ON (Power ⏪ LED が点灯)	8 時間以上
電源 OFF (Power ⏪ LED が消灯)	ほとんど充電しない

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2) バッテリを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

- バッテリパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。
- バッテリは 10 ~ 30°C の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN  LED が緑色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

パソコン本体に AC アダプタを接続すると、電源の ON/OFF にかかわらず充電されます。

2 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN  LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【充電完了までの時間】

状態	充電時間
電源 ON	約 4 ~ 11 時間以上
電源 OFF	約 2 ~ 3 時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くかかることがあります。

【 使用できる時間 】

バッテリ駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。

次の時間は、充電完了の状態で使用した場合の目安にしてください。

測定法	動作時間
JEITA 測定法 1.0	約 2.9 時間（モバイル インテル® Celeron® プロセッサモデルの場合）

【 使っていないときの充電保持時間 】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリ充電量は少しずつ減っていき、放置環境などによって異なります。

次の保持時間は、フル充電した状態で電源を切った場合の目安にしてください。

パソコン本体の状態	保持時間
電源切断または休止状態	約 1 ヶ月

2 バッテリを長持ちさせるには

- AC アダプタをコンセントに接続したままでパソコンを 8 時間以上使用しない場合は、バッテリを長持ちさせるためにも AC アダプタをコンセントからはずしてください。
- 1 ヶ月以上の長期間バッテリを使わない場合は、パソコン本体からバッテリパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1 ヶ月に 1 度は、AC アダプタをはずしてバッテリ駆動でパソコンを使用してください。

その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体から AC アダプタをはずし、パソコンの電源を入れる

電源が入らない場合は手順 4 へ進んでください。

3 5 分程度バッテリ駆動を行う

この間、Battery LED が点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐに AC アダプタを接続し、手順 4 へ進みます。

4 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN LED が緑色に点灯して Battery LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリの充電中は Battery LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN LED が消灯している場合は、通電していません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【バッテリを節約する】

バッテリを節約して、本製品をバッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする 参照 → 「本章 3-②」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく 参照 → 「本章 3-③」
- 省電力モードに設定する 参照 → 「本章 2」

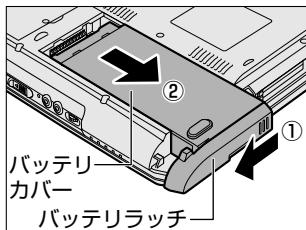
③ バッテリパックを交換する

バッテリパックの交換方法を説明します。

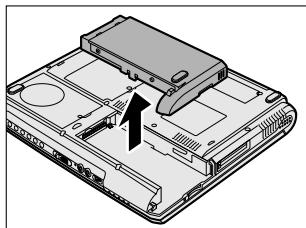
バッテリパックの取り付け / 取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

1 取りはずし／取り付け

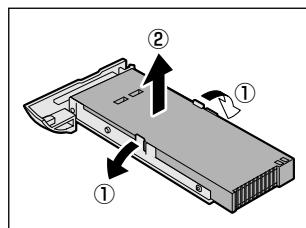
- 1 データを保存し、アプリケーションを終了する
- 2 [スタート] → [終了オプション] をクリックする
- 3 [電源を切る] をクリックする
Windows を終了して電源が切れます。
- 4 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 5 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- 6 バッテリラッチを横に押し①、バッテリカバーをスライドさせる②



7 バッテリパックごと、バッテリカバーを取り出す



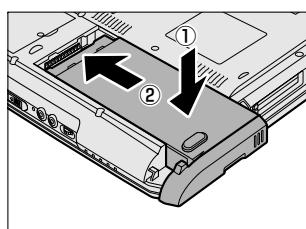
8 バッテリカバーからバッテリパックを取り出す



バッテリカバーのツメを左右に広げ①、
バッテリパックを取りはずします②。

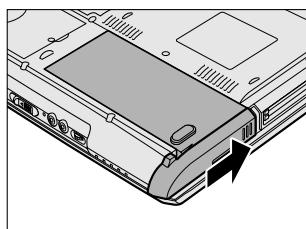
9 交換するバッテリパックをバッテリカバーに取り付ける

10 バッテリラッチが左側にあることを確認し、バッテリパックをコネクタの位置に合わせ①、静かに差し込む②



注意して差し込んでください。

11 バッテリラッチをスライドさせ、バッテリパックを固定する



2 省電力の設定をする

バッテリ駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。

1 省電力ユーティリティ

省電力の設定は「東芝省電力ユーティリティ」から行います。
ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

1 省電力ユーティリティの起動方法

- 1 [コントロールパネル]を開き、[パフォーマンスとメンテナンス]をクリックする
- 2 [東芝省電力]をクリックする
[東芝省電力のプロパティ]画面が表示されます。

2 【電源設定】タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適に使用できます。また、現在の電源やバッテリ残量などの詳細情報も表示します。



【電源に接続】 [バッテリを使用中]

表示されている設定可能な省電力モードの一覧から、設定したい省電力モードに設定します。【電源に接続】 [バッテリを使用中] は ACアダプタ接続／バッテリ駆動での使用によって、自動的に切り替わります。

購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

フルパワー	最高性能で動作する、消費電力が一番大きいモードです。購入時の初期状態では、「電源に接続」(ACアダプタを使用するとき)がこのモードに設定されています。
ロングライフ	消費電力を優先して省電力制御を行います。
ノーマル	性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。購入時の初期状態では、「バッテリを使用中」(バッテリ駆動で使用するとき)がこのモードに設定されています。
ハイパワー	性能を優先して省電力制御を行います。
DVD再生	性能と消費電力を両立してDVDの再生などに適した省電力制御を行います。
プレゼンテーション	性能と消費電力を両立してプレゼンテーション用ソフトなどの使用に適した省電力制御を行います。

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

すべての省電力モードは、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項4 省電力モードの詳細設定」を確認してください。

【省電力モードの作成】

- ①新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ②[コピー] ボタンをクリックする
[～のコピー] という省電力モードができます。
- ③その省電力モードの名前を変更する
- ④必要に応じて省電力の設定を変更する

【省電力モードの削除】

- ①削除する省電力モードをクリックする
- ②[削除] ボタンをクリックする
[元に戻す] ボタンで直前に行った削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後には元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている6つの省電力モードを削除することはできません。

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

[タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックする () と現在の省電力モードを示す省電力アイコン () が通知領域に表示されます。

省電力アイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを起動できます。

3 【休止状態】タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。

使用する場合は、[休止状態をサポートする] をチェックしてください。

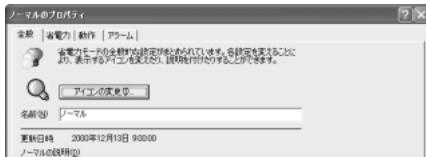


 休止状態について「本項 4- [動作] タブ」

4 省電力モードの詳細設定

1 [2]の【電源設定】タブで利用したい省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする

選択した省電力モードのプロパティ画面が表示されます。



【全般】タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

【省電力】タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

【動作】タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

お願い

- 次のような場合はスタンバイが無効になり、保存されていないデータは消失します。
 - ・誤った使いかたをしたとき
 - ・静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
 - ・バッテリが消耗したとき
 - ・故障、修理、バッテリ交換のとき
 - ・バッテリ駆動で使用中にバッテリパックを取りはずしたとき
 - ・増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき
- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LEDが点灯中は、バッテリパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、休止状態が無効になり、保存されていないデータは消失します。

メモ

動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、中断したときの状態をすばやく再現することができますが、休止状態よりバッテリを消費します。バッテリを使い切るとデータは消失するので、スタンバイ実行時は、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

【休止状態】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効（[東芝省電力] - [休止状態] タブの「休止状態をサポートする」がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリ充電量が減少すると、休止状態にして電源を切れます。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れるので、休止状態を有効にしておくことを推奨します。

【入力を求める】

[終了オプション] 画面が表示されます。

終了時の動作を選択してから、パソコンの電源を切ることができます。

【電源オフ】

Windows を終了して電源を切れます。

[スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める] をチェックする（）と、Windows のパスワードを設定している場合には、復帰するときにWindows パスワードの入力が必要になります。

【アラーム】タブ

バッテリ算量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。

[アラーム] タブは [電源設定] タブで [バッテリ使用中] に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

5 複数ユーザーで使用する場合

「東芝省電力ユーティリティ」は、コンピュータの管理者のみが使用できます。設定内容は各ユーザごとに保存されます。

参照▶ 複数のユーザで使用する場合は『基本をマスター 4章』

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 [東芝省電力ユーティリティ] を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

スタンバイまたは休止状態を実行するには、あらかじめ設定しておく必要があります。

参照 ➤ スタンバイ、休止状態について「本章2」

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

- スタンバイ中に以下のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
 - ・スタンバイ中にメモリを抜き差しすること
 - ・スタンバイ中にバッテリパックをはずすことまた、スタンバイ中にバッテリ残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押して一旦電源を切った後、再度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できていません（ResumeFailureで立ち上がります）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリや増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

1 スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリを消耗します。バッテリを使いつぶしてしまうとデータは消失するので、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



- 2 [スタンバイ] をクリックする



メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power (P) LED がオレンジ点滅しているか確認する

2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

- 1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
 - ② [東芝省電力] をクリックする
 - ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 休止状態が有効になります。

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



3 [Shift]キーを押したまま [休止状態] をクリックする

[Shift]キーを押している間は、「スタンバイ」が「休止状態」に変わります。



Disk LEDが点灯中は、バッテリパックを取りはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 電源スイッチを押す

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。本節 ②-1 手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [電源ボタンを押したとき] で [入力を求める] [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する

- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順1 の④で [入力を求める] を選択したときは、「コンピュータの電源を切る」画面が表示されます。

2 ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じたときに自動的にパソコンの使用を中断する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。本節 ②-1 手順1 を参照して、設定しておいてください。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] のいずれかを選択する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 ディスプレイを閉じる

選択した状態で作業を中断します。

次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。

3章

音楽と映像

音楽と映像を本製品で楽しむ方法について説明しています。

パソコンで音楽を聴く。それを CD に書き込んでオリジナルを作成する。写真や DVD-Video の映像を観る。それを編集して個人コレクションを作るなど。パソコンの楽しみかたを紹介します。

1 音楽CDを聴く	88
2 音楽ファイルを聴く	91
3 オリジナル音楽CDを作る	95
4 DVD-Videoを観る	99
5 デジタルカメラの写真を編集／整理する	105
6 動画を編集する	108

1 音楽 CD を聴く

本製品では Windows を起動している状態でも、また Windows を起動しない状態でも CD を聴くことができます。

メモ

音楽 CD の再生中に、パソコン本体に振動・衝撃を与えると、音飛びすることがあります。

1 Windows を起動して音楽 CD を聴く

Windows を起動して音楽 CD を再生するためには、音楽 CD に対応したアプリケーションが必要です。

本製品には次のアプリケーションがインストールされています。

- Windows Media Player

1 起動方法

1 音楽 CD をセットする

マルチドライブのイジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが出てきます。
[Audio CD (D:)] 画面が表示されます。

購入時は、音楽 CD を再生するアプリケーションとして「Windows Media Player」が選択されています。

参照 ➤ CD のセットについて『基本をマスター 1 章 1』

2 [オーディオ CD の再生 Windows Media Player 使用] が選択されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする

「Windows Media Player」が起動します。

3 画面のボタンで操作する

「Windows Media Player」の各操作ボタンの役割は次のとおりです。



- 再生／一時停止**
再生または一時停止します。
- 音量**
音量を調整します。
- 停止**
再生を停止します。
- ミュート**
音を消します。
- 前へ**
再生するトラックを1つ戻します。
- 次へ**
再生するトラックを1つ進めます。

CD/DVD再生ボタンで起動する

CD/DVD再生ボタンを使って、アプリケーションを起動することができます。

1 CD/DVD再生ボタンを押す



「Windows Media Player」が起動します。

ヘルプの起動方法

1 「Windows Media Player」を起動後、メニューバーから【ヘルプ】→【トピックの検索】をクリックする

参照 ➤ 「Windows Media Player」の問い合わせ先『困ったときは付録』

2) Windows を起動しないで音楽 CD を聴く

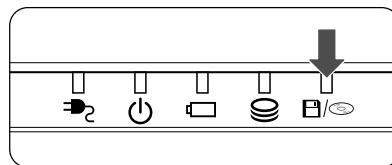
オーディオプレイボタンを使うと、Windows を起動しないで音楽 CD を再生できます。

1 操作方法

マルチドライブの電源を入れてから 2 分以上操作がない場合は、自動的にマルチドライブの電源が OFF になり、FDD/CD-ROM  LED が消灯します。その場合は、もう 1 度 CD/DVD 再生ボタンを押して電源を入れ直してください。

1 CD/DVD 再生ボタンを押す

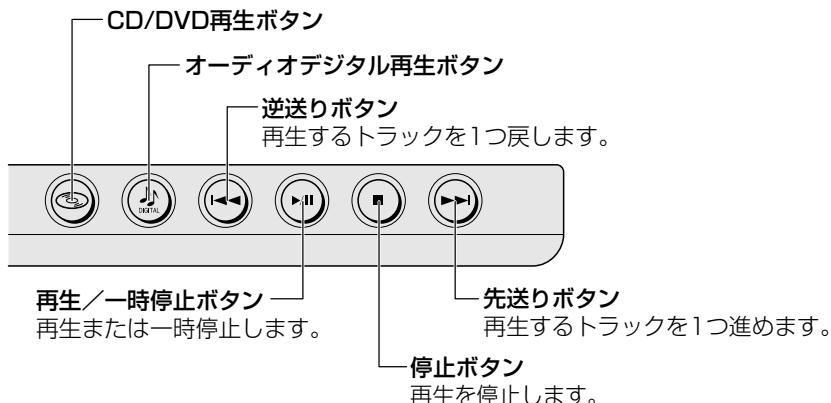
CD/DVD 再生ボタンを 1 秒程押すとマルチドライブの電源が入り、FDD/CD-ROM  LED がうすい緑色に点灯します。Power  LED は点灯しません。



2 音楽 CD をセットする

ドライブのイジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが出てきます。

3 オーディオプレイボタンで操作する



4 終了する場合は、音楽 CD を取り出してから CD/DVD 再生ボタンを押す

FDD/CD-ROM  LED が消えるまで押してください。

2 音楽ファイルを聴く

本製品では次のような音楽ファイルを再生できます。

- WAVE形式 (.wav)
- MIDI形式 (.mid)
- MP3形式 (.mp3) など

1 音楽再生用アプリケーションを起動する

オーディオデジタル再生ボタンを使ってアプリケーションを起動することができます。

1 起動方法

1 オーディオデジタル再生ボタンを押す

パソコンに電源が入っていない場合は、オーディオデジタル再生ボタンを1秒程押すと電源が入ります。



「Windows Media Player」が起動します。

参照 Windows Media Playerの操作について 「本章 1-①」

2 Windows Media Playerでファイルを再生する

まず、再生する音楽ファイルを用意してください。音楽ファイルは、インターネットからダウンロードしたりアプリケーションを使って自分で作ることもできます。

各音楽ファイルは「1トラック」として扱われます。

音楽ファイルには、曲名やアーティスト名などの情報が記録されていることがあります。これらの情報がある場合は、画面上に表示されます。

1 音楽ファイルを直接再生する

再生リストを作成していない場合は、次のように操作してください。

1 メニューバーから [ファイル] → [開く] をクリックする

2 聴きたい曲のファイルを選択し①、【開く】ボタンをクリックする②



再生が開始されます。

2 再生リストを作成する

ファイルを好きな順序に並べた再生リストを作成すると、複数の音楽ファイル（CD、ラジオ局、およびビデオからの複数のトラックなど）をグループ化して、指定した順序で再生することができます。

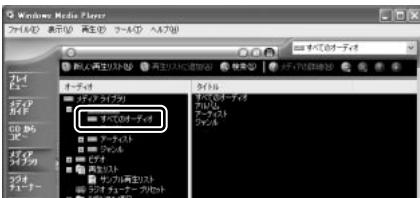
1 メディアライブラリにファイルを追加する

- 音楽 CD のトラックをコピーする
 - ① 音楽 CD をセットする
 - ② [CD からコピー] ボタンをクリックする
 - ③ コピーするトラックをチェックする
 - ④ [音楽のコピー] ボタンをクリックする
- ファイルを追加する場合
 - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [ファイルを追加] をクリックする
 - ② [ファイルを開く] 画面でファイルを選択する
- インターネット上の音楽ファイルなどのマルチメディアを追加する場合
 - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [URL を追加] をクリックする
 - ② [開く] 画面で URL またはパスを指定する

2 [メディアライブラリ] ボタンをクリックする



3 [すべてのオーディオ] をクリックする



メディアライブラリに追加されているファイルが表示されます。

4 [新しい再生リスト] ボタンをクリックする



5 [新しい再生リスト] 画面で、再生リストの名前を入力し①、[OK]ボタンをクリックする②



ここでは例として「新規リスト」とします。

[新規リスト] が [再生リスト] フォルダに追加されます。

6 メディアライブラリの中から再生リストに追加するファイルをクリックする



7 [再生リストに追加] ボタンをクリックしてメニューを表示し、目的の再生リストを選択する

ファイルが再生リストに追加されます。
例として「新規リスト」を選択します。



新しい再生リストが作成されました。

3 再生リストから再生する

1 [メディアライブラリ] 画面で、目的の再生リストをクリックする



リストの内容が右画面に表示されます。

2 [再生] ボタン (▶) をクリックする

再生が開始されます。

3 オリジナル音楽CDを作る

本製品では、CD-RW、CD-Rにデータを書き込むことができるアプリケーション「Drag'n Drop CD」を使用して、オリジナルの音楽CDを作成できます。

1) Drag'n Drop CDを使う前に

お願い CD-RW、CD-Rに書き込む前に

CD-RW、CD-Rに書き込みを行うときは、「Drag'n Drop CD」を使用してください。Windows標準のライティング機能や市販のライティングソフトは使用しないでください。

CD-RW、CD-Rに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らざるに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、使用しているパソコンの設定によっては、書き込みに失敗することがあります。

- CD-Rメディアに書き込む際には、8倍速対応CD-Rメディアを使用してください。
- CD-RWメディアに書き込む際には、2／4倍速対応（マルチスピード）CD-RWメディアまたはHigh-Speed CD-RW（4～10倍速）対応メディアを使用してください。High-Speed CD-RW対応メディアを使用した場合の書き込み速度は最大8倍速になります。
- 次のメーカーのCD-RW、CD-Rを使用することを推奨します。

CD-RW（マルチスピード、High-Speed）

：三菱化学（株）、リコー（株）

CD-R : 太陽誘電（株）、三井化学（株）、三菱化学（株）、リコー（株）、日立マクセル（株）

上記以外のメーカーのCD-RW、CD-Rを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- 本製品に添付の「Drag'n Drop CD」以外のCD-RW、CD-R書き込み用ソフトウェアは動作保証していません。
- バッテリ駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプタを接続して電源コンセントに接続してください。
- 書き込み用ソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。

 省電力機能について 「2章 2」

- スクリーンセーバなどCPUに負担のかかるソフトウェアは動作しないように設定してください。
- ウイルスチェックソフトを起動している場合は、終了させてください。

- 常駐型のディスクユーティリティやディスクのアクセスを高速化するユーティリティなどは、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。
- SD メモリカード、フロッピーディスク、PC カードタイプのハードディスクドライブ、USB 接続のハードディスクドライブなど、本製品のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込む際は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LAN を経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。

お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- モデムなど、通信アプリケーションを起動しないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
PC カード、USB 対応機器、CRT ディスプレイ、i.LINK 対応機器、SD メモリカード、PRT コネクタに接続する機器、PS/2 コネクタに接続する機器、COMMS コネクタに接続する機器
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- CD/DVD 再生ボタンを使用して音楽／音声の再生を行わないでください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

2 Drag'n Drop CD を使う

「Drag'n Drop CD」は、次の手順で起動してください。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD] →
[Drag'n Drop CD] をクリックする
デスクトップ上に、アイコンが表示されます。

2 Drag'n Drop CD の基本操作

デスクトップに表示されるアイコンは、次のような役割をもっています。



[Music BOX]

音楽CDを作成するときに使用します。
音楽ファイルをこのボックスにドラッグすると [Audio CD Layout Window] が開き、そこで好きな曲を選択すると自分だけの音楽CDを作成できます。

[DISC Backup BOX]

CDのバックアップを作成するときに使用します。
データCDや音楽CDなど、CDアイコンをこのボックスにドラッグすると、同じものをCD-RW、CD-Rでもう1枚作成できます。

[Data BOX]

データをCD-RW、CD-Rにバックアップするときに使用します。
CD-RW、CD-Rに書き込みたいデータファイルのアイコンをこのボックスにドラッグすると、CD-RW、CD-Rに書き込まれます。

Drag'n Drop CD は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。

CDに保存されているMP3方式またはWAVE方式の音楽ファイルを使用して音楽CDを作成する場合は、CDから直接 [Music BOX] にドラッグできません。一度ハードディスクに保存してから音楽CDを作成してください。

3 音楽CDを作成する

1 音楽CDをマルチドライブにセットする

[Audio CD (D:)] 画面が表示されます。

2 [キャンセル] ボタンをクリックする

[Audio CD (D:)] 画面が閉じます。

3 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

4 [Audio CD (D:)] アイコン (CD) を、[Music BOX] にドラッグアンドドロップする

[Audio CD Layout Window] 画面が表示され、[音楽CD トラック情報]には曲情報が表示されています。

5 [ブランクCDサイズ] を指定する

6 書き込みたいトラックを選択する

トラックは複数選択できます。

[再生] ボタン (▶) をクリックすると試し聴きできます。



7 [追加] ボタン (▶) をクリックする

デジタル抽出が開始されます。デジタル抽出が完了するまで、しばらくかかります。進行状況は、[デジタル抽出状況] のバーで確認できます。完了すると、[ベストアルバム トラック情報] に抽出した曲が表示されます。



トラックを選択して、[上] ボタンまたは [下] ボタンをクリックすると、選択したトラックが上下へ移動し、曲順が入れ替わります。

不要なトラックは [削除] ボタンで削除できます。

他の音楽CDから取り込みたい場合は、ここで音楽CDを入れ替え、手順6、7を繰り返します。

8 マルチドライブに未使用のCD-Rをセットする

9 [CDへの書き込み] ボタン (✔) をクリックする

CDへの書き込みが開始されます。書き込みが終了すると、マルチドライブのディスクトレイが自動的に開きます。

ヘルプの起動方法

「Drag'n Drop CD」の詳しい情報は、ヘルプを確認してください。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD] → [Drag'n Drop CDのヘルプ] をクリックする

「Drag'n Drop CD」のヘルプが表示されます。

参照 ➤ 「Drag'n Drop CD」の問い合わせ『困ったときは 付録』

4 DVD-Video を観る

本製品は、マルチドライブにDVD-Videoをセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。

DVD-Video再生ソフトウェアとして、「InterVideo WinDVD」が用意されています。

お願い DVD-Videoの再生にあたって

DVD-Videoの再生には、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用してDVD-Videoを再生すると、ノイズが発生する場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Videoを再生してください。

DVD-Video再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CDの再生はサポートしていません。

- DVD-Video再生時は、ACアダプタを接続してください。また、使用するDVDディスクのタイトルによっては、コマ落ちするケースがあります。
- DVD-Videoを再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動しないでください。

その他の注意については、「Readme」に記載しています。

「Readme」の起動は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [readme1st.txt] をクリックしてください。

1 InterVideo WinDVDを起動する

「InterVideo WinDVD」はWindowsからでも、Windowsが起動していない状態（電源が入っていないなど）でも起動することができます。

1 Windowsから起動する

1 DVD-Videoをセットする

[DVD_VIDEO (D:)] 画面が表示されます。

 DVDのセットについて『基本をマスター 1章 1』

2 [DVD ムービーの再生 InterVideo WinDVD 使用] を選択し①、[OK] ボタンをクリックする②



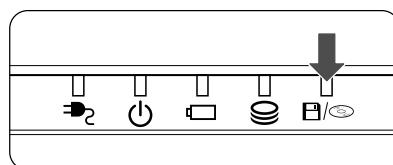
「InterVideo WinDVD」が起動します。

2 CD/DVD再生ボタンから起動する

Windows が起動していないときに、CD/DVD 再生ボタンで「InterVideo WinDVD」を起動できます。

1 CD/DVD 再生ボタンを押す

CD/DVD 再生ボタンを 1 秒程押すとマルチドライブの電源が入り、FDD/CD-ROM □/□ LED がうすい緑色に点灯します。Power ⌂ LED は点灯しません。



2 DVD-Video をセットする

DVD-Video をセットした場合、「InterVideo WinDVD」が起動します。

Windows が起動するまで、数秒かかる場合があります。

DVD-Video を再生する場合は、続けて [再生] ボタンをクリックしてください。

2) InterVideo WinDVD を使う

【InterVideo WinDVD】の操作ボタンの役割は次のとおりです。

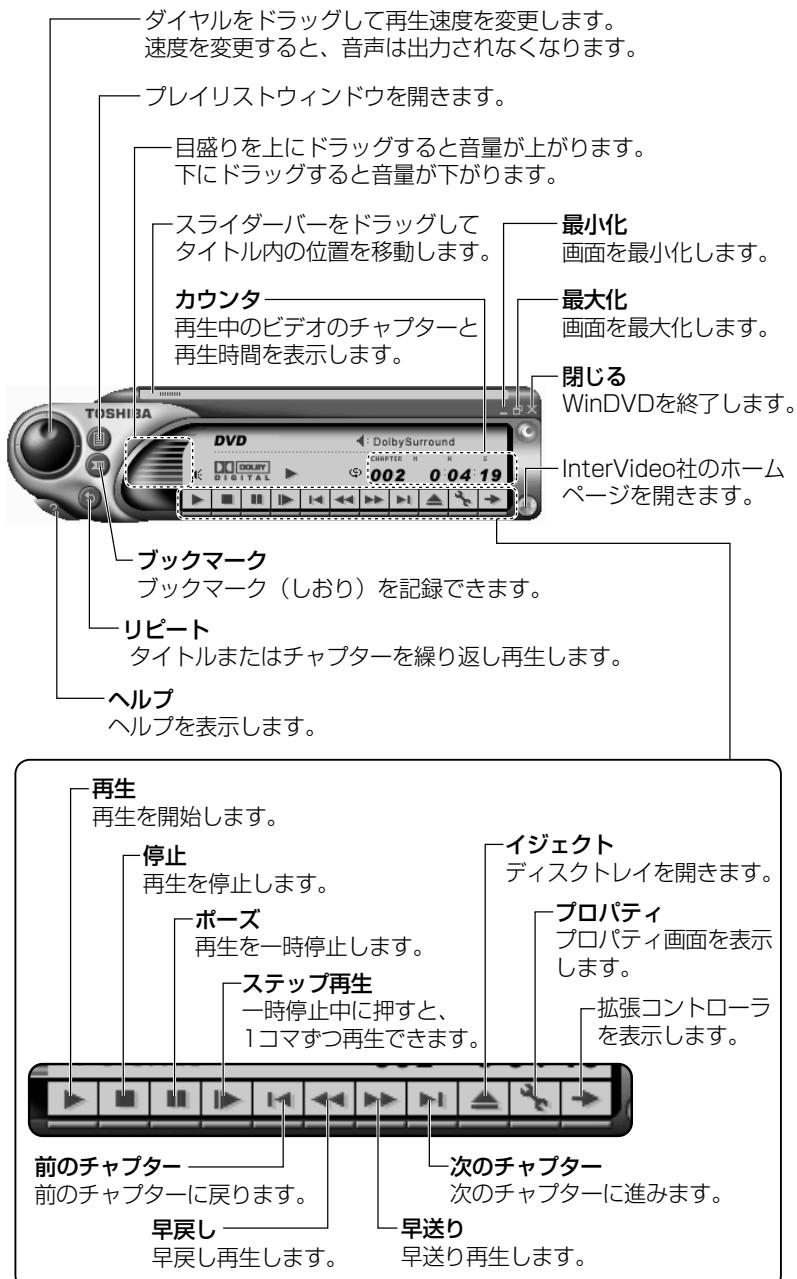
再生する DVD-Video によっては、表示が一部異なる場合があります。

また、操作ボタンの一部は機能に対応している場合のみ使用できます。

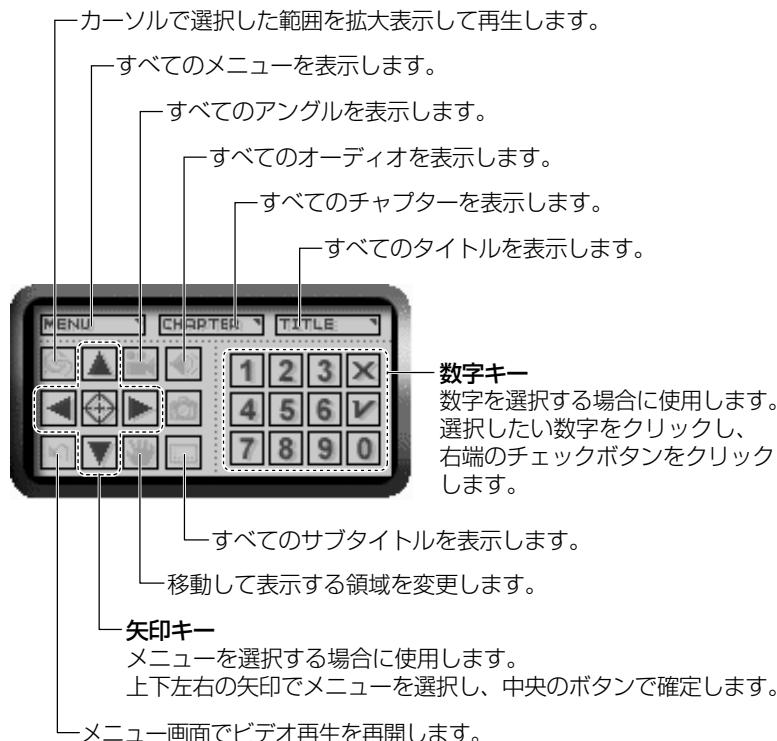
1 ビデオ表示ウィンドウ



2 WinDVDプレーヤー



3 拡張コントローラ



4 プロパティの設定

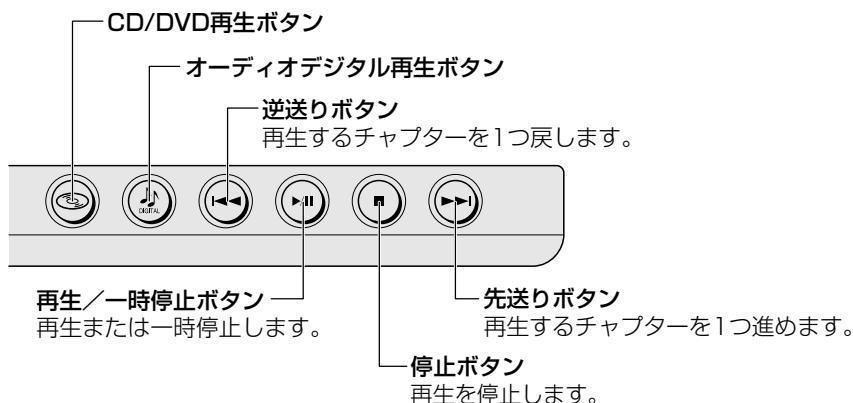
1 ビデオ表示ウィンドウの [プロパティ] ボタン () または WinDVD プレーヤーの [プロパティ] ボタン () をクリックする

[プロパティ] 画面が表示されます。

各タブで設定を行ってください。

5 オーディオプレイボタンで操作する

DVD-Video の基本操作は、オーディオプレイボタンを使うこともできます。



6 テレビに表示する

パソコン本体にテレビを接続して、DVD-Video の再生画面をテレビに表示させる
ことができます。

テレビに表示するには、表示装置の切り替えが必要です。

表示装置の切り替えは、「InterVideo WinDVD」を起動する前に行ってください。

参照 テレビの接続、表示装置の切り替え 「4章 5」

ヘルプの起動方法

- ビデオ表示ウィンドウの [ヘルプ] ボタン (?) または WinDVD プレーヤーの左下部にある [ヘルプ] ボタン (⚡) をクリックする

参照 「InterVideo WinDVD」の問い合わせ先 『困ったときは 付録』

5 デジタルカメラの写真を編集/整理する

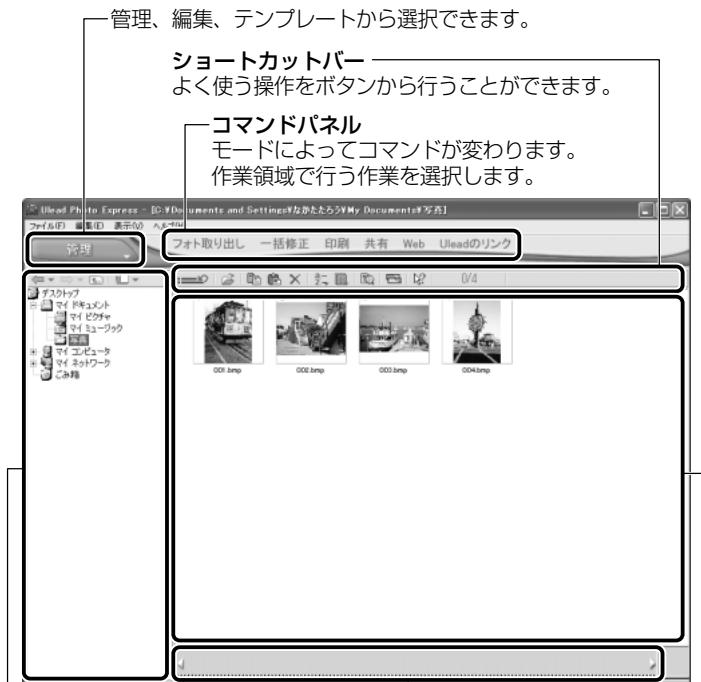
本製品には、画像を編集できるアプリケーション「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)」が用意されています。

1 デジカメ Walker を使う

「デジカメ Walker」を使うと、写真などの画像を簡単に編集できます。編集した画像を使ってカードやWebページを作成したり、アルバムを作って画像を管理することもできます。

1 起動方法

- [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Ulead iPhoto Express] をクリックする



— オプションパネル —
コマンドによって表示が切り替わります。詳しい設定ができます。

— サムネイルストリップ —
開いているイメージやプロジェクトのサムネイル（一覧表示画像）が表示されます。

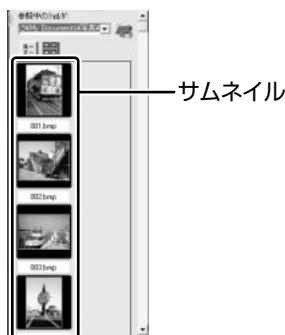
「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)」を初めて起動したときは、[ユーザ登録] 画面が表示されます。

2 写真を編集する

ここでは、デジタルカメラで撮った写真をパソコンにファイルとして取り込んだ状態で、編集を加える場合について説明します。

デジタルカメラからパソコンへの取り込みかたは、接続するデジタルカメラによって異なります。詳しくは、『デジタルカメラに付属の説明書』を確認してください。

- 1 [編集] モード () でコマンドパネルから [フォト取り出し] → [マイコンピュータ] をクリックする
オプションパネルに [参照中のフォルダ] が表示されます。
- 2 ▾ をクリックし、表示されたメニューから編集する写真のある
フォルダをクリックする
オプションパネルにサムネイルが表示されます。
- 3 編集する画像のサムネイルをクリックし、[開く] ボタンをクリック
する



作業領域に画像が表示されます。

- 4 コマンドパネルから [編集] のメニューをクリックし、画像を加工する

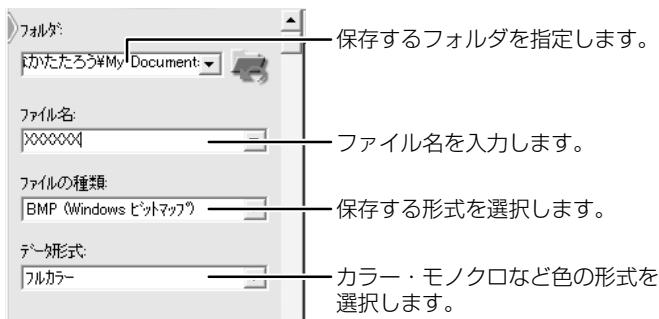
次のメニューから、画像にさまざまな効果を加えることができます。

調整	画像の切り抜き、サイズや明るさ／色の調整などを行います。
選択範囲	用途や形、色に基づいて範囲を選択します。
テキスト	画像に文字を書き込みます。文字にもいろいろな効果を選べます。
ペイント	筆で絵に色をつけるように、画像にさまざまな効果を加えます。
装飾	縁取りやイラスト、影の追加などが行えます。

3 加工した画像を保存する

1 コマンドパネルから [共有] → [保存] をクリックする

オプションパネルに、保存についての項目が表示されます。



2 [保存] ボタンをクリックする

ヘルプの起動方法

1 「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [Ulead iPhoto Express のヘルプ] をクリックする

PDFマニュアルの起動方法

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Screenbook] をクリックする

6 動画を編集する

本製品には、画像を編集できるアプリケーション「MotionDV STUDIO」が用意されています。

1 MotionDV STUDIO を使う

MotionDV STUDIO を使うと、デジタルビデオカメラの画像を編集できます。

デジタルビデオカメラを i.LINK (IEEE1394) コネクタに接続して、撮影した画像をパソコンに取り込みます。特殊効果やタイトル、BGMなどをつけて編集し、さまざまな形式で保存できます。

1 起動方法

- 【スタート】 → 【すべてのプログラム】 → 【Panasonic】 → 【MotionDV STUDIO】 → 【MotionDV STUDIO】 をクリックするはじめて「MotionDV STUDIO」を起動したときは、「Panasonic MotionDV STUDIO 使用許諾書」画面が表示されます。契約内容を確認のうえ、【同意します】 ボタンをクリックしてください。

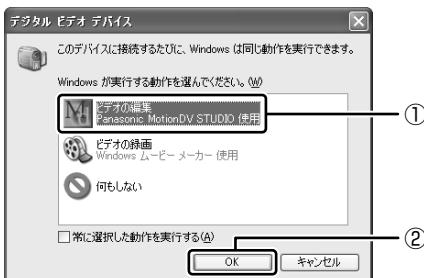


2 デジタルビデオカメラを接続する

デジタルビデオカメラを使用する場合、次の手順で正しく接続されているかどうか、確認してください。

1 接続の確認

- 1 i.LINK (IEEE1394) ケーブルをパソコン本体に接続する
参照 ➤ i.LINK ケーブルの接続 「4章 7」
- 2 ケーブルのもう一方のプラグをデジタルビデオカメラに接続する
- 3 デジタルビデオカメラの電源を入れる
[デジタルビデオデバイス] 画面が表示されます。
- 4 [ビデオの編集 Panasonic MotionDV STUDIO 使用] が選択されていることを確認し①、[OK] ボタンをクリックする②



「MotionDV STUDIO」が起動します。

ヘルプの起動方法

- 1 「MotionDV STUDIO」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [ヘルプ] をクリックする

PDFマニュアルの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Panasonic] → [MotionDV STUDIO] → [取扱説明書] をクリックする

4 章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。プリンタやスキャナ、外付けハードディスクドライブ、PC カード、増設メモリなど本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器について、その取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1	周辺機器について	112
2	PC カードを接続する	114
3	USB 対応機器を接続する	117
4	プリンタを接続する	118
5	テレビを接続する	120
6	CRTディスプレイを接続する	123
7	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する	124
8	その他の機器を接続する	126
9	LANへ接続する	130
10	メモリを増設する	133

1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ ● ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- PC カード ● モデム（本製品では内蔵）
- スキャナ ● フロッピーディスクドライブ（本製品では内蔵）
- マウス ● デジタルカメラ ● 増設メモリ

参照 ➤ 周辺機器の接続場所は「1章 1」

周辺機器によってインターフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。

- ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コードのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

1 ドライバをインストールする

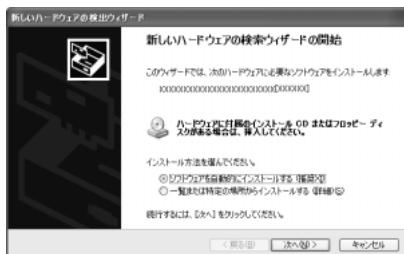
周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

【自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合】

Windowsには、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。

周辺機器を接続するとWindowsがドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかると、自動的にインストールを開始します。

【新しいハードウェアの検出ウィザード】画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



【自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合】

【ハードウェアの追加ウィザード】を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

【ハードウェアの追加ウィザード】は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする

2 PC カードを接続する

目的に合わせた PC カードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PC カードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード
- SCSI カード
- 無線 LAN カード
- Bluetooth PC カード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード など

1) PC カードを使う前に

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。

使用している PC カードがホットインサーションに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE II / III 対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

使用するタイプによって取り付け可能なスロットは異なりますので、よく確認してください。

スロット 0 に TYPE III の PC カードを取り付けたときは、スロット 1 に PC カードを取り付けることはできません。

使用スロット：1（上側）	TYPE III
使用スロット：0（下側）	TYPE II / III

△ 注意

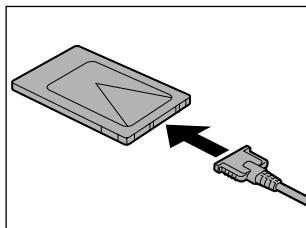
- ・ ホットインサーションに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。
- ・ PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから PC カードを取りはずしてください。
- ・ PC カードの使用停止は必ず行なってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

2) PC カードを使う

PC カードを使う場合、パソコン本体の PC カードスロットに PC カードを取り付けてください。

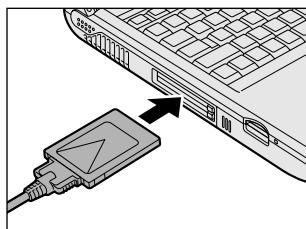
1 取り付け

1 PC カードにケーブルを付ける



SCSI カードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 上下や方向を確認し、PC カードを挿入する



カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PC カードを使用できない、または PC カードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

2 取りはずし

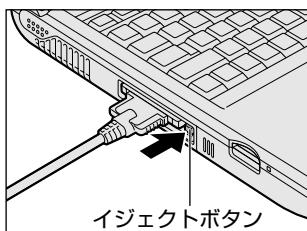
お願い

- 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

1 PC カードの使用を停止する

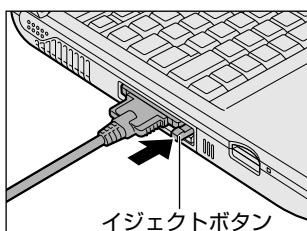
- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 イジェクトボタンを押す



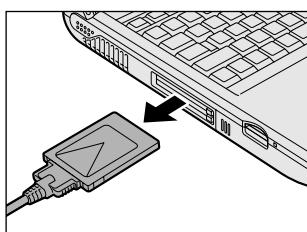
イジェクトボタンが出てきます。

3 もう一度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出でます。

4 カードをしっかりとつかみ、引き抜く



カードを引き抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを収納します。

3 USB 対応機器を接続する

ユーズビー USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

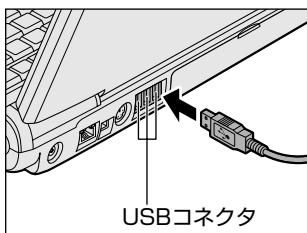
- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- 今後出荷される USB 対応機器については、動作確認ができないいためすべての機器の動作を保証することはできません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む



コネクタの向きを確認して差し込んでください。

2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 取りはずし

1 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

4 プリンタを接続する

PRT コネクタにパラレルインターフェースを持つプリンタを接続すると、印刷ができます。また、USB コネクタに USB 対応のプリンタも接続できます。接続や設定についての詳細は『プリンタに付属の説明書』を確認してください。

参照 ➔ USB 対応機器について「本章 3」

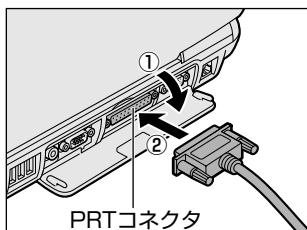
1) プリンタの接続と設定

プリンタの取り付け／取りはずしと、設定方法について説明します。

1 取り付け

PRT コネクタに接続する場合、プリンタとパソコンの電源を切った状態で接続してください。

- 1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、プリンタケーブルのプラグを PRT コネクタに差し込む②



- 2 プリンタケーブルのもう一方のプラグをプリンタに差し込む
プリンタの電源を入れてから、パソコンの電源を入れます。

2 プリンタの設定

【ドライバをインストールする】

プリンタを使うには、ドライバのインストールが必要です。

ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、プリンタに添付のフロッピーディスクや CD-ROM を使う場合があります。

プラグアンドプレイに対応している場合は、初めてプリンタを接続すると [プリンタの追加ウィザード] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

プラグアンドプレイに対応していない場合は [プリンタの追加ウィザード] を起動するか、『プリンタに付属の説明書』を読んで、インストールを行ってください。

[プリンタの追加ウィザード] は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [プリンタを追加する] をクリックする

【プリンタポートモードの設定】

使用するプリンタに合わせてプリンタモードの設定が必要です。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝HWセットアップ] をクリックする
- 3 [プリンタ] タブの [プリンタポートモード] で、使用するプリンタに合ったモードに設定する
 - ECP (標準値) ECP 対応に設定します。大半のプリンタでは、ECP に設定します。
 - 双方向 双方向に設定します。一部のプリンタ、またはプリンタ以外のパラレルインターフェース対応機器を使用する場合に設定します。

3 取りはずし

- 1 パソコン本体とプリンタに差し込んであるプリンタケーブルを抜く
使用しているプリンタに合わせて、プリンタの電源を切ってください。

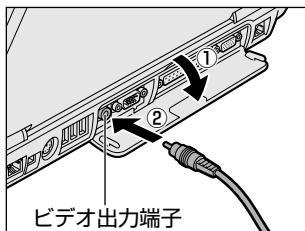
5 テレビを接続する

本製品に用意されているビデオ出力端子とテレビをケーブルで接続すると、テレビ画面に表示させることができます。

市販のビデオケーブルを使用してください。

1 取り付け

- 1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、ビデオケーブルのプラグ（ピンジャックタイプ）をビデオ出力端子に差し込む②



- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグをテレビの入力端子に差し込む
音声はパソコンのスピーカで聞くか、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

2 テレビに表示する

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

■ 方法 1—画面のプロパティで設定する ■

- 1 [コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする
※ 以降の手順は、使用しているモデルによって異なります。使用しているモデルの手順を参照してください。

【インテル® Pentium® 4 プロセッサモデルの場合】

4 [S3Display] タブで表示する装置を有効にする



* デバイスのアイコンをクリックすると、そのデバイスの設定をすることができます。

表示装置をチェック（）すると有効になり、各アイコンの画面にウィンドウが表示されます。

- CRT CRTディスプレイに表示
- LCD パソコン本体のディスプレイに表示
- TV テレビに表示

CRTディスプレイとパソコン本体のディスプレイに同時表示したいときは、[CRT] と [LCD] 両方をチェックして、有効にしてください。

【モバイル インテル® Celeron® プロセッサモデルの場合】

4 [表示デバイス] タブで表示する装置を有効にする



表示装置名をクリックすると有効になり、文字が黄色になります。

- LCD パソコン本体のディスプレイに表示
- CRT CRTディスプレイに表示
- [LCD] と [CRT] を有効にすると、同時表示されます。
- TV テレビに表示
- [LCD] と [TV] に同時表示したいときは、[ディファレントリフレッシュレート] をチェック（）して、有効にしてください。

MS-DOS プロンプトを表示している場合、パソコン本体の液晶ディスプレイとテレビの同時表示はできません。

【画面のプロパティ】で表示色数を 32bit に設定していると、この操作はできません。

■ 方法 2— **(Fn) + (F5)** キーを使う ■

(Fn)キーを押したまま(F5)キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(F5)キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(Fn)キーをはなすと表示装置が切り替わります。

現在の表示装置が LCD (パソコン本体のディスプレイ) 以外に設定されている場合、(Fn)+(F5)キーを 3 秒間押し続けると、表示装置が LCD に戻ります。これは最初に(Fn)+(F5)キーを押したときのみ有効です。



- LCDパソコン本体のディスプレイだけに表示
- LCD／CRTパソコン本体のディスプレイと CRT ディスプレイの同時表示
- CRTパソコン本体のディスプレイと CRT ディスプレイを接続している／していないに関わらず、CRT ディスプレイだけに表示されます。
パソコン本体のディスプレイには何も表示されません。
- LCD／TVパソコン本体のディスプレイとテレビの同時表示
【画面のプロパティ】で【ディファレントリフレッシュレート】をチェック（）したときだけ有効になります。
- TVテレビだけに表示
テレビを接続している／していないに関わらず、テレビだけに表示されます。
パソコン本体のディスプレイには何も表示されません。

3 取りはずし

1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるビデオケーブルを抜く

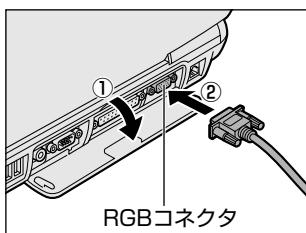
6 CRT ディスプレイを接続する

RGB コネクタにケーブルを接続して、CRT ディスプレイに表示させることができます。

パソコンの電源を切ってから接続してください。

1 接続

- 1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、CRT ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む②**



CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその CRT ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。

2 表示装置を切り替える

CRT ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- CRT ディスプレイだけに表示する（初期設定）
- CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

省電力ユーティリティで表示自動停止機能を設定して CRT ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります、故障ではありません。

【切り替え方法】

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合を確認してください。

参照 ➔ テレビ接続について「本章 5-2」

3 表示について

CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

参照 ➔ ビデオモードについて「付録 2」

7 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。

i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ

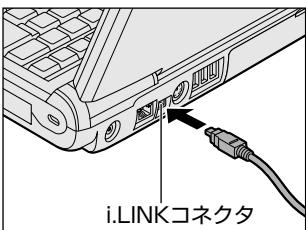
i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電気的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電気的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーに問い合わせてください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

1 取り付け

- 1 ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む
コネクタの向きを確認して差し込んでください。



- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

2 取りはずし

- 1 i.LINK 機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

※デジタルビデオカメラの種類によっては、手順 1 は必要ありません。

- 2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 i.LINKによるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2台で通信ができます。ネットワークの設定については、《サイバーサポート》を確認してください。

- 1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する
- 2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

8 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

1) RS-232C 対応機器

COMMS コネクタには、RS-232C 対応機器を接続できます。

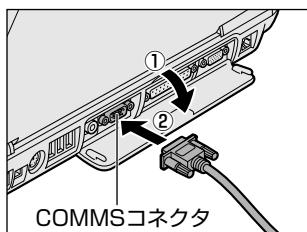
パソコンの電源を切ってから接続してください。

RS-232C 対応機器には次のようなものがあります。

- モデム
- マウス
- テンキー
- スキャナ
- トラックボール

1 接続

1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、ケーブルのプラグを COMMS コネクタに差し込む②



取りはずすときは、COMMS コネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。

2) PS/2 対応機器

PS/2 コネクタには、PS/2 対応機器を接続できます。

パソコンの電源を切ってから接続してください。

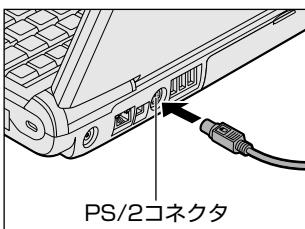
PS/2 対応機器には次のようなものがあります。

- キーボード
- マウス
- テンキー
- トラックボール

※ PS/2 マウスを取り付けると、タッチパッドが使用できなくなります。

1 接続

1 ケーブルのプラグをPS/2コネクタに差し込む



取りはずすときは、PS/2コネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。

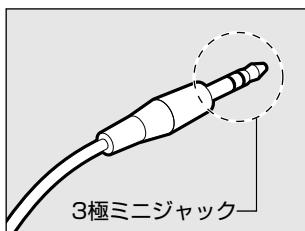
3 マイクロホン

マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。
本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

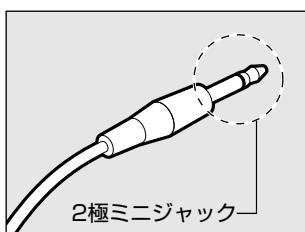
参照 ➤ サウンド機能について「1章 7」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



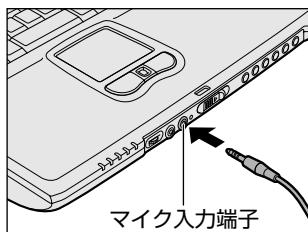
- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは3.5mm ϕ 3極ミニジャックタイプが使用できます。



3.5mm ϕ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

2 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを引き抜きます。

4 ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる / 切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け / 取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

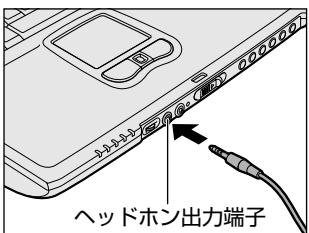
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows の「マスター音量」で調節してください。

マスター音量は、次のように操作して起動します。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

1 接続

1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを引き抜きます。

9 LANへ接続する

本製品には、ブロードバンド対応の LAN 機能が内蔵されています。

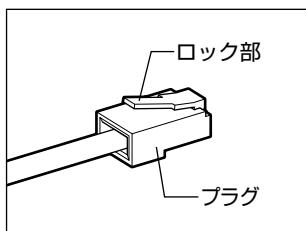
LAN コネクタに ADSL モデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。また、本製品の LAN 機能は、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) に対応しています。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernet を自動的に検出して切り替えます。

1 LANケーブルの接続

LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100Mbps) で使用するときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ 3 のケーブルは使用できません。

10BASE-T 規格 (10Mbps) で使用するときは、カテゴリ 3 または 5 のケーブルが使用できます。

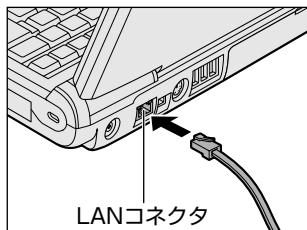
カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したものです。カテゴリ 1 ~ 5 まであり、数字が高いほど品質が高くなります。



LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LAN ケーブルのプラグを背面の LAN コネクタに差し込む



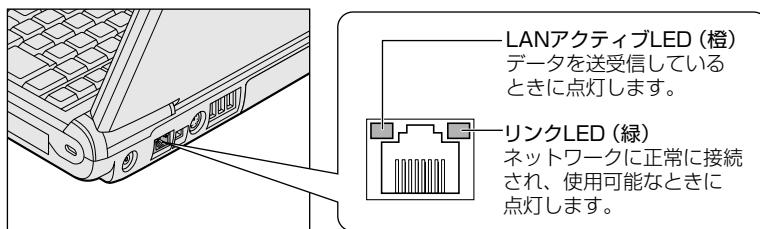
ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、《サイバーサポート》を確認してください。また会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 LANコネクタに関するインジケータ

LANコネクタの両脇には、LANインターフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。



3 Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windowsの起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

⚠ 注意

ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行なってください。

1 [コントロールパネル]を開き、[ネットワークとインターネット接続]をクリックする

2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

10 メモリを増設する

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、スロットAはすでに256MBのメモリが取り付けられています。別売りの増設メモリをスロットBに取り付けたり、スロットAのメモリを付け替えることができます。

⚠ 警告

本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると危険です。

⚠ 注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 次のような場合、増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。やけど、感電、故障のおそれがあります。
 - ・スタンバイ中
 - ・CD/DVD再生ボタンでドライブの電源をONにしているとき
 - ・電源を切った直後電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。
- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。

お願い

- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

【取り付けられる増設メモリについて】

増設メモリは、本製品で動作確認されている次の種類のものを使用してください。

Pentium モデル (DynaBook T5/X16P **)	タイプX (PC2100 規格)
Celeron モデル (DynaBook T5/512C **)	タイプY (PC133 規格)

動作確認されている上記仕様以外のメモリを増設すると、パソコンは次のような警告を発し、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。

インテル® Pentium® 4 プロセッサモデルの場合

警告音が鳴り、どちらのスロットに取り付けられている増設メモリが仕様に合わないか、次のメッセージが表示されます。

「Please remove the incompatible memory module in Slot A」と表示された場合
.....スロットA

「Please remove the incompatible memory module in Slot B」と表示された場合
.....スロットB

メッセージが2行表示された場合は、両方のスロットに取り付けられた増設メモリが仕様と合っていません。

最大512MBまでメモリを増設できます。

モバイルインテル Celeron® プロセッサモデルの場合

パソコン本体が起動せず、警告音（ビープ音）が鳴ります。スロットAに取り付けた場合は「ピー・ピッ」と、スロットBに取り付けた場合は「ピー・ピッ・ピッ」と鳴ります。

最大1GBまでメモリを増設できます。

各タイプの規格に準じている増設メモリには、次の製品があります。

タイプX	タイプY
128MB (PAME128X)	128MB (PAME128Y)
256MB (PAME256X)	256MB (PAME256Y)
	512MB (PAME512Y)

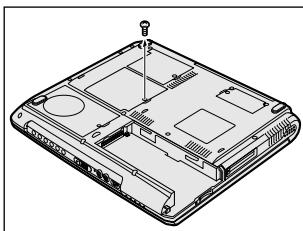
(注) 2002年5月現在のものです。購入時に販売店で確認してください。

静電気について

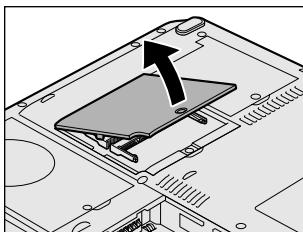
増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触るだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け

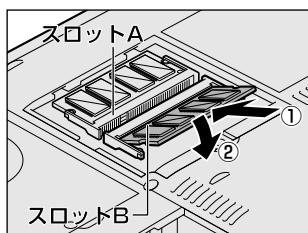
- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 パソコン本体を裏返して、バッテリパックを取りはずす
- 4 参照 ➤ バッテリパックについて「2章 1-③」
- 4 増設メモリカバーのネジをはずす



- 5 増設メモリカバーをはずす

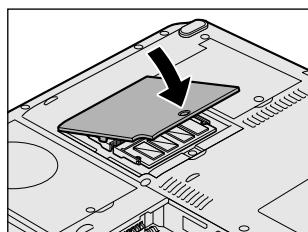


6 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②



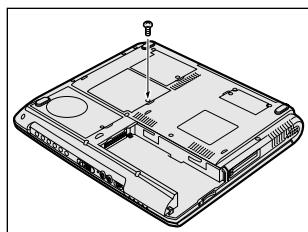
増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかりと差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

7 増設メモリカバーをはめる



増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

8 手順 4 ではずしたネジでとめる



9 バッテリパックを取り付ける

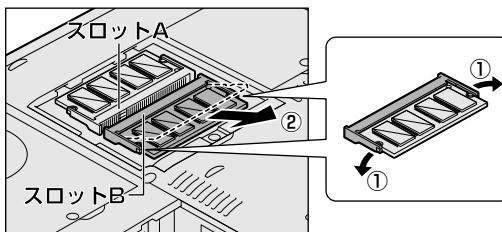
参照 → バッテリパックについて「2章 1-③」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 → メモリ容量の確認について「本項 3」

2 取りはずし

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす
- 3 パソコン本体を裏返して、バッテリパックを取りはずす
 参照 ➤ バッテリパックの交換「2章 1-③」
- 4 増設メモリカバーのネジをはずす
- 5 増設メモリカバーをはずす
- 6 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②



斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

7 増設メモリカバーをはめる

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

8 手順4ではずしたネジでとめる

9 バッテリパックを取り付ける

参照 ➤ バッテリパックの交換「2章 1-③」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。モバイルインテル® Celeron® プロセッサモデルの場合、メインメモリ領域のうち 16MB がビデオ RAM として使用されます。そのため、ここで表示されるメモリの容量は、実際の搭載メモリより約 16MB 少なく表示されます。

【確認方法】

- ① [スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックする
- ② [ヘルプトピックを選びます] の [東芝 PC 診断ツール] をクリックする
- ③ 左画面の [東芝 PC 診断ツール] をクリックする
- ④ [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- ⑤ [メモリ] の数値を確認する

5章

アプリケーションを追加する／削除する

本製品に、新たにアプリケーションを追加する方法
や、削除する方法について説明しています。

-
- 1 アプリケーションを追加（インストール）する 140
 - 2 アプリケーションを削除（アンインストール）する 141

1 アプリケーションを追加(インストール)する

インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。

お願い

- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

[プログラムの追加と削除] からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で [プログラムの追加と削除] を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合もあります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

1 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたは CD-ROM をセットする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[プログラムの追加と削除] をクリックする
- 3 [プログラムの追加] ボタン () をクリックする
- 4 [CD またはフロッピー] ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

2 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でもアプリケーションCDから、再インストールして使用することができます。

参照 ➤ 再インストールについて『困ったときは 4 章』

アプリケーションを削除する方法を説明します。

アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

メモ

アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ(アンインストーラ)が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

1 操作手順

- 1 [コントロールパネル]を開き、[プログラムの追加と削除]をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする
- 3 [削除]ボタンをクリックする



表示されるメッセージに従って操作してください。

6 章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

-
- 1 システム環境の変更とは 144
 - 2 東芝HWセットアップを使う 145
 - 3 セットアッププログラムを使う 151

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、またはセットアッププログラムで変更するか、2つの方法があります。

Windows 上のユーティリティには、「東芝省電力ユーティリティ」、「東芝 HW セットアップ」などがあります。

参照 東芝省電力ユーティリティについて「2章 2」

通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。

セットアッププログラムと Windows 上のユーティリティで設定が異なる場合、Windows の設定が優先されます。

2 東芝 HW セットアップを使う

東芝 HW セットアップを使い、Windows 上でハードウェアの設定を変更できます。パスワード、パソコンの起動などのさまざまな項目について設定ができます。複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

1 東芝 HW セットアップの起動と使用

東芝 HW セットアップの操作について、説明します。

1 起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [東芝 HW セットアップ] をクリックする

2 使用方法

■ [全般] タブ ■

セットアッププログラムのバージョンと日付などを表示します。



【標準設定】

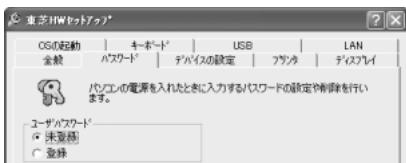
このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」の [パスワード] タブ以外のタブの項目が購入時の設定状態に戻ります。

【バージョン情報】

このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」のバージョン情報を表示します。

■ [パスワード] タブ ■

パソコンの電源を入れたときに入力するパスワードの登録や削除を行います。



【パスワードの登録】

- ① [ユーザーパスワード] の [登録] をチェックする
- ② [ユーザーパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「* * * * *」(アスタリスク)で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット (半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号 (単独のキーで入力できる文字の一部)	- ^ @ [] ; : , . / (スペース)
使用できない文字		<ul style="list-style-type: none">・全角文字 (2バイト文字)・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号など・単独のキーで入力できない (入力するときにShiftキーなどを使用する) 文字 【例】 (バーチカルライン) 、 & (アンド) 、 ~ (チルダ) など・¥ (エン) [¥] キーや [下ろ] キーを押すと¥が入力されます。

- ③ [パスワードの確認] 画面の [パスワードの確認] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
- ④ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

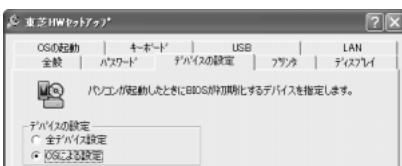
登録したパスワードは、忘れたときのために必ず控えておいてください。

【 パスワードの削除 】

- ① [ユーザーパスワード] の [未登録] をチェックする
- ② [ユーザーパスワード] 画面の [パスワードの入力] に登録してあるパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードが削除されます。
- ③ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードの入力エラーが 3 回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう 1 度設定を行ってください。

■ [デバイスの設定] タブ ■

パソコンが起動したときにセットアッププログラムが初期化する装置を指定します。



【 デバイスの設定 】

● 全デバイス設定

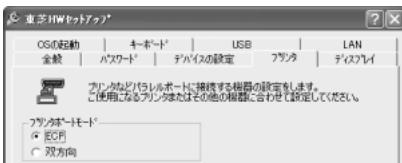
すべての装置を初期化します。

● OS による設定

システムをロードするのに必要な装置のみ初期化します。それ以外の装置はシステムが初期化します。通常はこちらに設定します。

■ [プリンタ] タブ ■

プリンタなど、パラレルポートに接続する機器の設定をします。使用するプリンタ、またはその他の機器にあわせて設定してください。



【 プリンタポートモード 】

- ECP

ECP 対応に設定します。大半のプリンタでは ECP に設定します。

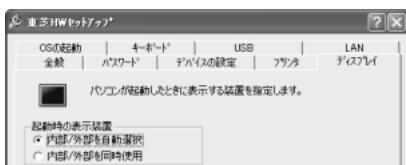
- 双方向

双方向に設定します。一部のプリンタ、またはプリンタ以外のパラレルインタフェース機器を使用する場合に設定します。

参照 ➤ プリンタの設定「4章 4」

■ [ディスプレイ] タブ ■

表示する装置を選択します。



【 起動時の表示装置 】

- 内部／外部を自動選択

システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されている場合は、外部 CRT ディスプレイだけに表示します。システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されていない場合は、本体のディスプレイに表示します。

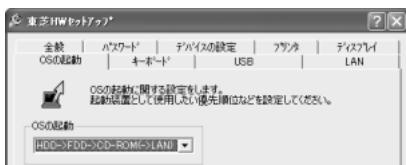
- 内部／外部を同時使用

外部ディスプレイと本体のディスプレイの両方に表示します。

参照 ➤ CRT ディスプレイの接続「4章 6」

■ [OS の起動] タブ ■

パソコンの起動について設定します。

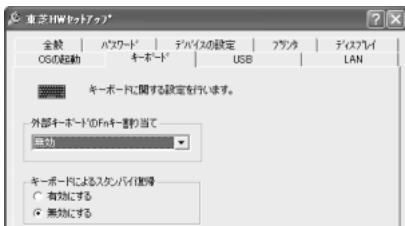


【 OS の起動 】

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。

通常は [HDD → FDD → CD-ROM (→ LAN)] に設定してください。

■ [キーボード] タブ ■



【外部キーボードの(Fn)キー割り当て】

PS/2コネクタに接続した外部キーボードで、(Fn)キーの代わりに使用できるキーを設定します。

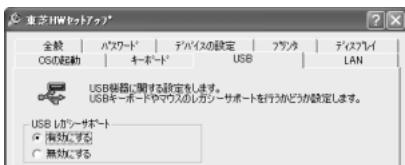
(Fn)キーの割り当てをしない場合、[無効] に設定します。

【キーボードによるスタンバイ復帰】

この機能を有効にすると、スタンバイ時にどれかキーを押して復帰させることができます。

■ [USB] タブ ■

USB 対応機器について設定します。



【USB レガシーサポート】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

● 有効にする

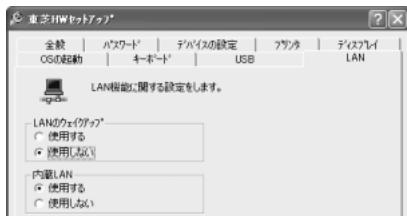
レガシーサポートを行います。ドライバなしで USB キーボード、USB マウスが使用可能になります。通常はこちらに設定します。

● 無効にする

レガシーサポートを行いません。

■ [LAN] タブ ■

LAN 機能について設定します。



【 LAN のウェイクアップ 】

LAN のウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。

LAN のウェイクアップ機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

【 内蔵 LAN 】

内蔵 LAN を使用するかどうかを設定します。

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 [東芝 HW セットアップ] を起動後、画面右上の ? をクリックする
ポインタが ↓? に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 セットアッププログラムを使う

セットアッププログラムとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。BIOSと呼ばれる場合もあります。

次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

セットアッププログラムを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更はWindows上の「東芝HWセットアップ」、「東芝省電力ユーティリティ」、システムの「デバイスマネージャ」などで行ってください。セットアッププログラムとWindows上の設定が異なる場合、Windows上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- セットアッププログラムで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリが消耗して取り換えた場合は標準設定値に戻ります。

1 セットアッププログラムの操作

セットアッププログラムの起動と終了、基本操作について説明します。

1 起動

1 [Esc]キーを押しながら電源を入れる

「Password =」と表示された場合は、登録したパスワードを入力し、
[Enter]キーを押してください。

 パスワードについて「本章2」、「本節3-2」

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 [F1]キーを押す

セットアッププログラムが起動します。

2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 [Fn]+[→]キーを押す

本製品では、[Fn]+[→]が[End]キーの機能を持ちます。
画面にメッセージが表示されます。

2 (Y)キーを押す

設定内容が有効になり、セットアッププログラムが終了します。
変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままでです。

1 (Esc)キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 (Y)キーを押す

セットアッププログラムが終了します。

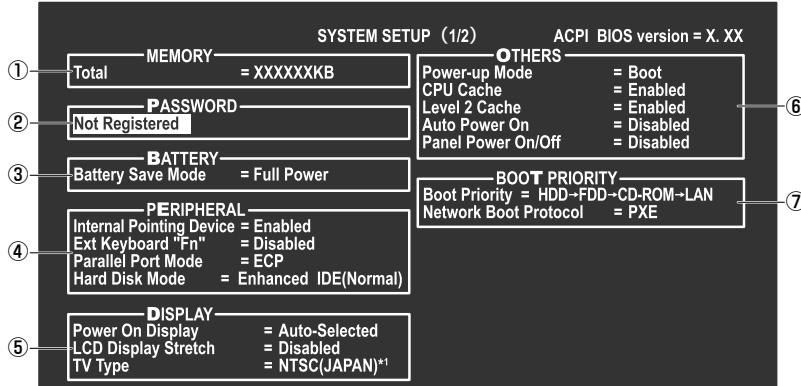
3 基本操作

基本操作は次のとおりです。

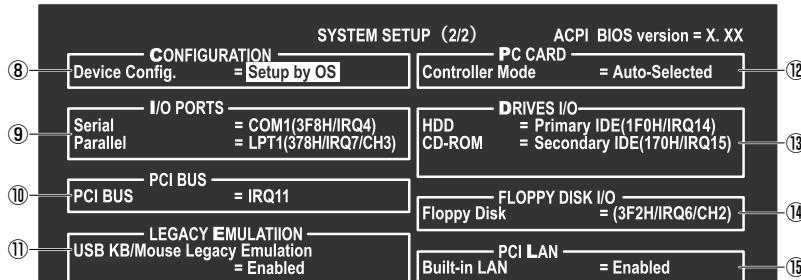
変更したい項目を選択する	(↑)、(↓)、(←)、(→) 画面内で反転している部分が現在変更できる項目です。
項目の内容を変更する	(Space)または(BackSpace)
画面を切り替える	(Fn)+(↓)または(Fn)+(↑) 本製品では、(Fn)+(↓)が(PgDn)キー、(Fn)+(↑)が(PgUp)キーの機能を持ちます。 次の画面または前の画面に切り替わります。
設定内容を標準値にする	(Fn)+(←) 本製品では、(Fn)+(←)が(Home)キーの機能を持ちます。 次の項目は、この操作をしても変更されません。 ●PASSWORD ●Hard Disk Mode ●Write Policy

2 セットアッププログラムの画面

セットアッププログラムには次の2つの画面があります。



(注) 画面は標準設定値の表示例です。



(注) 画面は標準設定値の表示例です。

* 1 モバイル インテル® Celeron® プロセッサモデルでは、「NTSC」と表示されます。

3 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。
ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORY—メモリ容量を表示する

【 Total 】

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 PASSWORD—パスワードの登録／削除をする

パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度設定を行ってください。

【 Not Registered 】

パスワードが設定されていないときに表示されます（標準値）。

【 Registered 】

パスワードが設定されているときに表示されます。

■ パスワードの登録 ■

パスワードの設定は「東芝HWセットアップ」で行うことを推奨します。

 東芝HWセットアップでのパスワード設定「本章 2-1-2」

■ キーフロッピーディスクの作成 ■

キーフロッピーディスクとは、パスワードを忘れた場合に使用するフロッピーディスクのことです。セットアッププログラムで作成してください。

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの2DDまたは2HD(1.44MB)フロッピーディスクが必要です。あらかじめ用意してください。

キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよく確認してから、使用してください。

次のように操作して、キーフロッピーディスクを作成します。

1 セットアッププログラムを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、**(Space)**または**(BackSpace)**キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

パスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、パスワードを削除してから、登録してください。

参照▶ パスワードの削除方法「本項 パスワードの削除」

3 パスワードを入力する

パスワードは10文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、「東芝HWセットアップ」の場合と同様です。

参照▶ 東芝HWセットアップからのパスワード登録「本章 2-①-2」

パスワードは1文字ごとに*が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

4 **(Enter)**キーを押す

1回目のパスワードが確認され、パスワードの再入力画面が表示されます。

5 2回目のパスワードを入力する

パスワードは手順3と同じパスワードを入力してください。

6 **(Enter)**キーを押す

パスワードが登録されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

7 パスワードの設定が終了したら、**(Fn) + →**キーを押す

本製品では、**(Fn) + →**が**(End)**キーの機能を持ちます。

次のようなメッセージが表示されます。

Are you sure ? (Y/N)

The changes you made will cause the system to reboot.

Insert password service disk if necessary.

8 キーフロッピーディスクを作成する場合は、フロッピーディスクをセットして**(Y)**キーを押す

作成しないでそのまま終了する場合はフロッピーディスクをセットせずに**(Y)**キーを押します。

セットアッププログラムの画面に戻るには**(N)**キーを押します。

手順9はキーフロッピーディスクを作成する場合の手順です。

9 キーフロッピーディスクを作成する

☞ キーフロッピーディスクの使いかた「本項 パスワードを忘れてしまった場合」

次のメッセージが表示されます。

Password Service Disk Type ? (1:2HD,2:2DD)

① セットされているフロッピーディスクが2HDの場合は①キーを、2DDの場合は②キーを押す

フロッピーディスクへの書き込みを開始します（フロッピーディスクがセットされていない場合は、そのまま終了します）。

フロッピーディスクへの書き込みが終了すると、次のメッセージが表示されます。

Remove the password service disk, then press any key.

② フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押して終了する

■ パスワードの削除 ■

「東芝HWセットアップ」からの削除については「本章 2 東芝HWセットアップを使う」を確認してください。

1 セットアッププログラムを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、
SpaceまたはBackSpaceキーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに*が表示されます。

4 Enterキーを押す

パスワードが削除されます。

入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示された後、パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

■ パスワードを忘ってしまった場合 ■

キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除と再設定ができます。また、再設定したパスワードのキーフロッピーディスクも作成できます。キーフロッピーディスクを作成していなかったときにパスワードを忘ってしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

- 「Password=」と表示されたら、キーフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、**Enter**キーを押す
パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

Set Password Again ? (Y/N)

- パスワードを再設定する場合は、**Y**キーを押す

セットアップ画面が表示されます。「本項 キーフロッピーディスクの作成」の手順2以降を行ってください。再設定後、システムが再起動します。

- パスワードを再設定しない場合は、**N**キーを押す

次のメッセージが表示されます。

Remove the Disk,then press any key.

フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押すと、システムが再起動します。

■ パスワードの変更 ■

パスワードを削除してから、登録を行ってください。

-  参照 パスワードの削除と登録について
「本項 パスワードの削除」、「本章2-①-2」

■ パスワードの入力 ■

パスワードが設定されている場合、電源を入れると「Password=」と表示されます。この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

- 設定したとおりにパスワードを入力し、Enterキーを押す

Arrow Mode  LED、Numeric Mode  LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

-  参照 パスワードを忘れた場合「本項 パスワードを忘ってしまった場合」

インスタントセキュリティ状態にして電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するにはパスワードを入力してください。インスタントセキュリティ状態にしたときに、パスワードを忘れてしまった場合、キーフロッピーディスクは使用できません。

3 BATTERY—バッテリで長く使用するための設定をする

【Battery Save Mode】

バッテリセーブモードを設定します。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。

「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power (標準値)	●Low Power	●User Setting (設定例)
Processing Speed = High	Processing Speed = Low	Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 30Min.	Display Auto Off = 03Min.	Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 30Min.	HDD Auto Off = 03Min.	HDD Auto Off = 03Min.
System Auto Off = Disabled	System Auto Off = 30Min.	System Auto Off = 30Min.
LCD Brightness = Super-Bright	LCD Brightness = Bright	LCD Brightness = Semi-Bright
Cooling Method = Maximum Performance	Cooling Method = Battery Optimized	Cooling Method = Battery Optimized

(注) System Auto Off (システム自動停止時間) は、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。LCD Brightness (LCD 輝度) の表示は次の状態で変わります。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、 キーを押して選択項目を「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- High 処理速度を高速に設定する
- Low 処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode

CPU が処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

- Enabled 電力消費を低減する
- Disabled 電力消費を低減しない

● Display Auto Off (表示自動停止時間)

時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合（マウスやタッチパッドの操作も含む）にディスプレイを消灯して節電します。

画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。

画面に表示するには、(Shift)キーを押すか、マウス、タッチパッドを操作してください。

- Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。

● HDD Auto Off (HDD自動停止時間)

設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

● System Auto Off (システム自動停止時間)

時間を設定すると、設定した時間以上システムを使用しない場合に、システムを止めて節電します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

- Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「10Min.」～「60Min.」から選択します。

● LCD Brightness (LCD輝度)

画面の明るさを選択します。

- Semi-Bright 低輝度に設定する
- Bright 高輝度に設定する
- Super-Bright 最高輝度に設定する

● Cooling Method (CPU熱制御方式)

CPUの熱を冷ます方式を選択します。

CPUが高熱を帯びると故障の原因になります。

- Maximum Performance ... CPU温度が上昇したときに、本体内にあるファンを高速回転させてCPUに風を送り、冷やします。
- Performance CPUが高温になったときに、本体内にあるファンが作動しCPUに風を送り、冷やします。
- Battery Optimized CPUが高温になったときに、CPUの処理速度を「Low」にして温度を下げます。「Low」にしても、温度が上がる場合はファンを作動させます。

4 PERIPHERAL—HDDや外部装置の設定をする

【 Internal Pointing Device 】

タッチパッドの使用する／使用しないを設定します。

- ・ Enabled (標準値) 使用する
- ・ Disabled 使用しない

【 Ext Keyboard "Fn" 】

外部キーボードの(Fn)キーの割り当てをします。

- ・ Disabled (標準値) .. (Fn)キーの代替えキー割り当てをしない
- ・ Enabled 次のキーを(Fn)キーの代替えキーとして割り当てる
 - ・ Left Ctrl + Left Alt Right Ctrl + Right Alt
 - ・ Left Alt + Left Shift Right Alt + Right Shift
 - ・ Left Alt + CapsLock

【 Parallel Port Mode 】

パラレルポートモードの設定をします。

Windowsで使用する場合は、標準値のままで使用できます。

- ・ ECP (標準値) ECP 対応に設定する
大半のプリンタでは、ECP に設定します。
- ・ Std.Bi-Direct. 双方向に設定する
一部のプリンタおよび、プリンタ以外のパラレル装置を使用する場合に設定します。

メモ

Windowsを使用している場合は「東芝HWセットアップ」の設定が有効になり、「Parallel Port Mode」の設定は無効になります。

【 Hard Disk Mode 】

ハードディスクのモードを設定します。

項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行ってください。

- ・ Enhanced IDE (Normal) (標準値) 通常はこちらを選択する
- ・ Standard IDE Enhanced IDEに対応していないOSを使用する場合に選択する
この場合、528MBまでが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

5 DISPLAY—表示装置の設定する

SVGA モードに対応していない外部 CRT ディスプレイを接続して、「Simultaneous」を選択した場合、外部 CRT ディスプレイには画面が表示されません。

【 Power On Display 】

表示装置を選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値) .. システム起動時に外部 CRT ディスプレイを接続しているときは外部 CRT ディスプレイだけに、接続していないときは本体のディスプレイだけに表示する
- ・ Simultaneous 外部 CRT ディスプレイと本体のディスプレイに同時に表示する

【 LCD Display Stretch 】

内部ディスプレイの表示機能を選択します。

- ・ Enabled 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する
- ・ Disabled (標準値) .. 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

【 TV Type 】

テレビ受信機を選択します。

インテル® Pentium® 4 プロセッサモデルの場合

- ・ NTSC (US) 米国仕様の TV 受信機
- ・ NTSC(JAPAN) (標準値) .. 日本仕様の TV 受信機
- ・ PAL ヨーロッパ仕様の TV 受信機

モバイル インテル® Celeron® プロセッサモデルの場合

- ・ NTSC (標準値) 日本と米国仕様の TV 受信機
- ・ PAL ヨーロッパ仕様の TV 受信機

6 OTHERS—その他の設定をする

【 Power-up Mode (レジューム機能) 】

レジューム機能を設定します。

- Boot (標準値) レジューム機能を無効にする
- Resume レジューム機能を有効にする

【 CPU Cache (キャッシュ) 】

CPU内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- Disabled キャッシュメモリを使用しない
- Enabled (標準値) ... キャッシュメモリを使用する

「Enabled」を選択すると「OPTION」ウィンドウが開きます。

次に「OPTION」ウィンドウの項目について説明します。

● Write Policy

キャッシュメモリへの書き込み方式を設定します。

- Write-back (標準値) ... 書き込み方式を「Write-back」に設定する

キャッシュメモリにデータを書き込み、キャッシュメモリの状態に応じてメインメモリに書き込みます。
- Write-through 書き込み方式を「Write-through」に設定する

キャッシュメモリとメインメモリに、同時にデータを書き込みます。

【 Level 2 Cache 】

2次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。

「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は変更できません。

- Enabled (標準値) ... 2次キャッシュを使用する
- Disabled 2次キャッシュを使用しない

【 Auto Power On (タイマ・オン機能) 】

タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は1回のみ有効です。起動後は設定が解除されます。

Windows XPを使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。Windowsのタスクスケジューラを使用してください。

- Disabled (標準値) ... タイマ・オン機能、Wake-up on LAN機能とも設定されていない
- Enabled タイマ・オン機能、Wake-up on LAN機能が設定されている

タイマ・オン機能、Wake-up on LAN機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

パスワードと休止状態が設定してある状態で、タイマ・オン機能（Auto Power On）を設定してシステムを起動させた場合、インスタントセキュリティ状態で起動し「Password=」と表示されます。パスワードを入力すると、休止状態からWindowsに復帰します。

インスタントセキュリティとは、画面の表示をオフにし、キー入力（タッチパッド、マウスを含む）もできない状態のことです。

次に「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

アラームの時刻の設定は(Space)または(BackSpace)キーで行います。
時と分、月と日の切り替えは(↑)(↓)キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

- Disabled 時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。

「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

- Disabled 月日を設定しない

● Ring Indicator

電話回線からの呼び出し信号により、自動的に電源を入れます。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

また、この機能はPCカードタイプのモデムで使用できます。ただし、スタンバイ状態時のみ実行できます。

- Disabled (標準値) ... リングインジケータ機能を使用しない
- Enabled リングインジケータ機能を使用する

- Wake-up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。

「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。

Wake up on LAN 機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

- Enabled Wake up on LAN 機能を使用する
- Disabled (標準値) . Wake up on LAN 機能を使用しない

【 Panel Power On/Off (パネルスイッチ機能) 】

ディスプレイの開閉による電源の入／切を設定します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に表示されます。

- Enabled パネルスイッチ機能を使用する
- Disabled (標準値) ... パネルスイッチ機能を使用しない

7 BOOT PRIORITY—ブート優先順位を設定する

【 Boot Priority 】

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。

通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

- HDD → FDD → CD-ROM → LAN (標準値)
 - FDD → HDD → CD-ROM → LAN
 - HDD → CD-ROM → LAN → FDD
 - FDD → CD-ROM → LAN → HDD
 - CD-ROM → LAN → HDD → FDD
 - CD-ROM → LAN → FDD → HDD
- 指定のドライブ順に起動する

電源を入れたときや再起動時に、次のキーを押し続けると、一時的に設定内容と違うドライブから起動できます。

これらのキーによって設定は変更されません。

Ⓐキー	マルチドライブから起動
Ⓑキー	内蔵 LAN から起動
Ⓕキー	フロッピーディスクドライブから起動
①キー	パソコン本体のハードディスクドライブから起動
②キー	PC カードタイプ (TYPE II または TYPE III) のハードディスク (別売り) から起動
③キー	通常の設定された起動ドライブから起動

【 Network Boot Protocol 】

ネットワークからの起動について設定します。

- ・PXE（標準値）PXEプロトコルに設定する
- ・RPLRPLプロトコルに設定する

8 CONFIGURATION

【 Device Config. 】

ブート時に BIOS が初期化する装置を指定します。

- ・Setup by OS（標準値）...OSをロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置はOSが初期化します。
この場合、「PC CARD」内の設定は、「Auto-Selected」固定となり、変更できません。
- ・All Devicesすべての装置を初期化する

プレインストールされているOSを使用する場合は、「Setup by OS」（標準値）を選択することを推奨します。ただし「PC CARD」内のController Modeの設定を「Auto-Selected」以外に設定する場合は「All Devices」に設定してください。

 「PC CARD」について「本項 12」

9 I/O PORTS(I/Oポート)

【 Serial 】

シリアルポートの割り当てを設定します。

- ・Not Usedシリアルポートを割り当てない
 - ・COM1（標準値）
 - ・COM2
 - ・COM3
 - ・COM4
-] 指定のポートを割り当てる

【 Parallel 】

パラレルポートの割り当てを設定します。

「Not Used」以外を選択すると、「OPTION」ウィンドウが開きます。

次に「OPTION」ウィンドウの項目について説明します。

● DMA

DMAチャネルを設定します。

「Parallel Port Mode」が「ECP」の場合に設定できます。

10 PCI BUS—PCIバスの割り込みレベルを表示する

【 PCI BUS 】

PCIバスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

11 LEGACY EMULATION

【 USB KB/Mouse Legacy Emulation 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- Enabled (標準値) ... レガシーサポートを行う
 ドライバなしで USB キーボード／USB マウスが使用できます。
- Disabled レガシーサポートを行わない

12 PC CARD—PCカードのモードを選択する

【 Controller Mode 】

PC カードのモードを選択します。

- Auto-Selected (標準値) ... プラグアンドプレイに対応した OS を使用している場合、選択します。
- Card Bus/16-bit Auto-Selected で正常に動作しない CardBus 対応の PC カードを使用する場合に選択します。
- PCIC Compatible Auto-Selected や CardBus/16 - bit で正常に動作しない 16 - bit PC カードを使用する場合に選択します。

13 DRIVES I/O—HDD、CD-ROM、PC カードの設定

【 HDD 】

ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

【 CD-ROM 】

ドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

内蔵されているドライブが CD-ROM ドライブではない場合も、すべて「CD-ROM」と表示されます。

【 PC Card 】

PCカードタイプ（TYPE IIまたはIII）のハードディスク（別売り）からシステムを起動させた場合のみ、表示されます。

システムを起動できるPCカードのタイプ（TYPE IIまたはIII）のハードディスク（別売り）をPCカードスロットに接続したときのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

14 FLOPPY DISK I/O

【 Floppy Disk 】

フロッピーディスクドライブのアドレス、割り込みレベル、チャネルの設定を表示します。変更はできません。

15 PCI LAN

【 Built-in LAN 】

内蔵LANの機能を有効にするかどうかの設定をします。

- Enabled (標準値) ... 有効にする
- Disabled 無効にする

付録

本製品について、外形や各インターフェースなどの
ハードウェア仕様や、技術基準適合について記して
います。

-
- 1 アプリケーション一覧 170
 - 2 本製品の仕様 172
 - 3 各インターフェースの仕様 177
 - 4 技術基準適合について 184

1 アプリケーション一覧

本製品にはさまざまなアプリケーションが用意されています。

複数のユーザで使用できる Windows XP では、システム全体を変更できるユーザ（コンピュータの管理者）と、できる操作に制限のあるユーザ（制限付きアカウント）をあらかじめ設定しますが、プレインストールされているアプリケーションの中には、ログオンするユーザによって使用に制限がある場合があります。

参照 ➤ 複数のユーザで使用する場合について『基本をマスター 4章』

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
簡単インターネット	○ *1		○	○
The 翻訳インターネット	○		○	○
内蔵モデム用 地域選択ユーティリティ		○		○ *2
東芝コントロール (メール着信機能)			○	
東芝コントロール (ボタン機能)	○	○	○	
東芝コンソール	○		○	
Drag'n Drop CD	○		○ *3	○
LaLaVoice	○ *4		○	○
デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)		○		
MotionDV STUDIO		○		○ *2
InterVideo WinDVD	○			○
プロアトラス 2002 for TOSHIBA		○	○	○ *2
駄すぱあと	○		○	
筆ぐるめ		○		○ *2
Norton AntiVirus 2002	○		○	○
東芝 PC 診断ツール		○		○ *2
東芝 HW セットアップ	○			— *5
東芝省電力ユーティリティ		○	○	— *5
Fn-esse	○		○	○
いきなりインターネット (infoPepper)		○		○ *2

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
AOL	○			○
DION 簡単設定ツール		○	○	○*2
OCN サインアップ		○		
@nifty でインターネット		○		○*2
ODN ダイヤルアップ スタートーキット	○		○*6	○
DreamNet		○	○	
BIGLOBE サインアップナビ	○			○
TTNet	○		○	○
eAccess	○		○	○

* 1 制限付きアカウントはダイヤル方式の設定はできません。

* 2 コンピュータ管理者（インストールしたユーザ）以外も、デスクトップまたはスタートメニューにアイコンがありますが、使用できるユーザはコンピュータ管理者のみです。

* 3 CDへの書き込みは、複数のユーザが同時にすることはできません。

* 4 制限付きアカウントでのご使用は動作保証外となります。

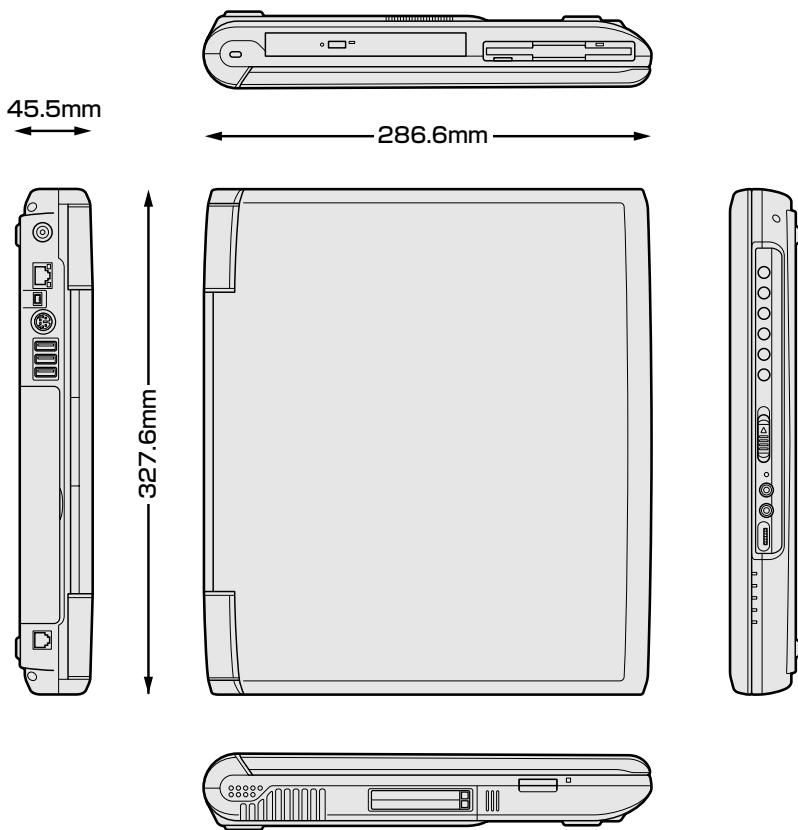
* 5 コントロールパネルにはアイコンが表示されます。

* 6 [ユーザアカウント] のオプションにて [ユーザの簡易切り替えを使用する] を設定している場合のみ、可能です。

2 本製品の仕様

1 外形寸法図

※数値は突起部を含みません。



2 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

【インテル® Pentium® 4 プロセッサモデルの場合】

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40×25字	8×8	16/256K	70
2,3		80×25字	8×8	16/256K	
0*,1*		40×25字	8×14	16/256K	
2*,3*		80×25字	8×14	16/256K	
0+,1+		40×25字	8(9)×16	16/256K	
2+,3+		80×25字	8(9)×16	16/256K	
4,5	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	4/256K	70
6		640×200ドット	8×8	2/256K	
7	VGA テキスト	80×25字	8(9)×14	モノクロ	
7+		80×25字	8(9)×16	モノクロ	
D	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	16/256K	
E		640×200ドット	8×8	16/256K	
F		640×350ドット	8×14	モノクロ	
10		640×350ドット	8×14	16/256K	
11		640×480ドット	8×16	2/256K	60
12		640×480ドット	8×16	16/256K	
13		320×200ドット	8×8	256/256K	

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	SVGA グラフィックス	640×480 ドット	—	256/256K	60/75/85 /100
—		800×600 ドット	—	256/256K	
—		1024×768 ドット	—	256/256K	
—		1280×1024 ドット	—	256/256K	
—		1400×1050 ドット	—	256/256K	60/75
—		1600×1200 ドット*1	—	256/256K	60/75/85
—		1920×1440 ドット*1	—	256/256K	60
—		640×480 ドット	—	64K/64K	60/75/85 /100
—		800×600 ドット	—	64K/64K	
—		1024×768 ドット	—	64K/64K	
—		1280×1024 ドット	—	64K/64K	60/75/85
—		1400×1050 ドット	—	64K/64K	60/75
—		1600×1200 ドット*1	—	64K/64K	60/75/85
—		1920×1440 ドット*1	—	64K/64K	60
—		640×480 ドット	—	16M/16M	60/75/85 /100
—		800×600 ドット	—	16M/16M	
—		1024×768 ドット	—	16M/16M	60/75/85
—		1280×1024 ドット	—	16M/16M	60/75
—		1400×1050 ドット	—	16M/16M	
—		1600×1200 ドット*1	—	16M/16M	60

* 1 : LCD に表示する場合、実際の画面 (1400 × 1050) 内に、仮想スクリーン表示します。

【モバイルインテル® Celeron® 4 プロセッサ-M モデルの場合】

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40×25字	8×8	16/256K	70
2,3		80×25字	8×8	16/256K	
0*,1*		40×25字	8×14	16/256K	
2*,3*		80×25字	8×14	16/256K	
0+,1+		40×25字	8(9)×16	16/256K	
2+,3+		80×25字	8(9)×16	16/256K	
4,5	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	4/256K	70
6		640×200ドット	8×8	2/256K	
7	VGA テキスト	80×25字	8(9)×14	モノクロ	60
7+		80×25字	8(9)×16	モノクロ	
D	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	16/256K	60
E		640×200ドット	8×8	16/256K	
F		640×350ドット	8×14	モノクロ	
10		640×350ドット	8×14	16/256K	
11		640×480ドット	8×16	2/256K	
12		640×480ドット	8×16	16/256K	
13		320×200ドット	8×8	256/256K	
—	SVGA グラフィックス	640×480ドット	—	256/256K	60/75/85
—		800×600ドット	—	256/256K	
—		1024×768ドット	—	256/256K	
—		1280×1024ドット*1	—	256/256K	
—		1600×1200ドット*1	—	256/256K	60
—		640×480ドット	—	64K/64K	60/75/85
—		800×600ドット	—	64K/64K	
—		1024×768ドット	—	64K/64K	
—		1280×1024ドット*1	—	64K/64K	
—		1600×1200ドット*1	—	64K/64K	60
—		640×480ドット	—	16M/16M	60/75/85
—		800×600ドット	—	16M/16M	
—		1024×768ドット	—	16M/16M	60/75

* 1 : LCD に表示する場合は、実際の画面 (1024 × 768) 内に、仮想スクリーン表示します。

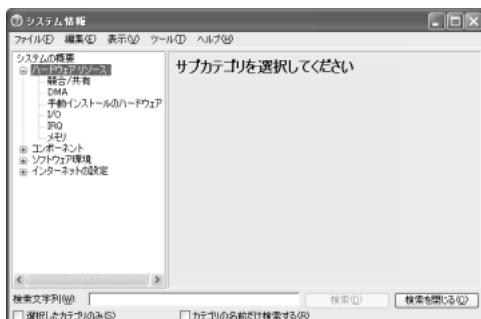
注) 1 部の画面モードはディファレントリフレッシュモード、マルチモニターでは使用できません。

3 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/O ポートマップ、IRQ 使用リソース、DMA 使用リソースは次の方で確認できます。

使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [ハードウェアリソース] をダブルクリックする
- 3 調べたい項目をクリックする



メモリマップ : [メモリ]

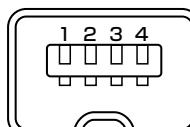
I/O ポートマップ : [I/O]

IRQ 使用リソース : [IRQ]

DMA 使用リソース : [DMA]

3 各インターフェースの仕様

1 i.LINK (IEEE1394) インタフェース

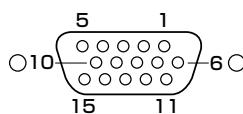
ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TPB-	ストローブ受信／データ送信 (2対の差動信号)	
2	TPB+	ストローブ受信／データ送信 (2対の差動信号)	
3	TPA-	データ受信／ストローブ送信 (2対の差動信号)	
4	TPA+	データ受信／ストローブ送信 (2対の差動信号)	
コネクタ図			
			

信号方向 (I) : パソコン本体への入力
信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

2 RGBインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	ID2	モニタID2	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	Reserved	予約	
10	GND	信号グランド	
11	IDO	モニタID	
12	SDA	SDA通信信号	
13	-CHSYNC	水平同期信号	O
14	-CVSYNC	垂直同期信号	O
15	SCL	SCLデータクロック信号	

コネクタ図

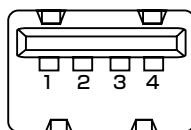


高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

3 USBインターフェース

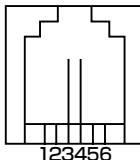
ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	
コネクタ図			



信号名：ーがついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (I)：パソコン本体への入力
 信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

4 モデムインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	-	ノーコンタクト	
2	-	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	-	ノーコンタクト	
6	-	ノーコンタクト	
コネクタ図			

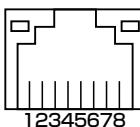


信号名：ーがついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (I)：パソコン本体への入力
 信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

5 LANインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TX	送信データ (+)	O
2	-TX	送信データ (-)	O
3	RX	受信データ (+)	I
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ (-)	I
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	

コネクタ図



信号名：-がついているのは、負論理値の信号です

信号方向 (I) : パソコン本体への入力

信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

6 PRTインターフェース

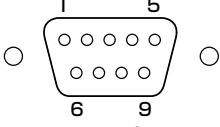
ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	-STROBE	PDO～7のデータを書き込むための同期出力信号	0
2	PDO	PDOのデータを送信する信号	I/O
3	PD1	PD1のデータを送信する信号	I/O
4	PD2	PD2のデータを送信する信号	I/O
5	PD3	PD3のデータを送信する信号	I/O
6	PD4	PD4のデータを送信する信号	I/O
7	PD5	PD5のデータを送信する信号	I/O
8	PD6	PD6のデータを送信する信号	I/O
9	PD7	PD7のデータを送信する信号	I/O
10	-ACK	-STROBEに対するデータ受信完了信号	I
11	BUSY	データ受信できるかどうかを示すステータス信号	I
12	PE	用紙切れを知らせるステータス信号	I
13	SELCT	セレクト／ディセレクト状態を示すステータス信号	I
14	-AUTFD	自動用紙送り機構用信号	0
15	-ERROR	アラーム状態を示すステータス信号	I
16	-PINT	初期状態に戻す信号	0
17	-SLIN	未使用	0
18	GND	信号グランド	
19	GND	信号グランド	
20	GND	信号グランド	
21	GND	信号グランド	
22	GND	信号グランド	
23	GND	信号グランド	
24	GND	信号グランド	
25	GND	信号グランド	
コネクタ図			
D-SUB 25ピンメス			

信号名：ーがついているのは、負論理値の信号です
 信号方向（I）：パソコン本体への入力
 信号方向（O）：パソコン本体からの出力

7 COMMSインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CD	受信キャリア検出	I
2	RXD	受信データ	I
3	TXD	送信データ	O
4	DTR	データ端末レディ	O
5	GND	信号グランド	
6	DSR	データセットレディ	I
7	RTS	送信要求	O
8	CTS	送信可	I
9	CI	被呼表示	I

コネクタ図



D-SUB 9ピンオス

信号方向 (I) : パソコン本体への入力
信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

8 PS/2インターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	MOUSDT	マウスデータ	I/O
2	EXTKBDT	キーボードデータ	
3	GND	グランド	
4	VCC	5V	
5	MOUSCK	マウスクロック	I/O
6	EXTKBCK	キーボードクロック	I/O
コネクタ図			
 ミニDIN 6ピンメス			

信号方向 (I) : パソコン本体への入力
 信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

4 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースター プログラムの参加事業者として、
本製品が国際エネルギースター プログラムの対象製品に関する基
準を満たしていると判断します。



参照 ➡ 省電力設定について 「2章 2」

FCC information

Product name : DynaBook T5 series

Model number : PS240, PS140

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, PRT connector, COMMS connector, USB connector, PS/2 connector, i.LINK(IEEE1394) connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.

9740 Irvine Boulevard

Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PS240*, PS140* conforms to the following Standards:

Supplementary Information : "The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC."

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives.
Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第50条1項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



認定番号
A00-0940JP

●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2002年5月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ了承してください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

付録

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

1 NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353 11026A

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in your modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1  
ATS133=1  
AT&F  
AT&W  
AT%TE=0  
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
- c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:

ATB0 (CCITT operation)

AT&G2 (1800 Hz guard tone)

AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)

ATS0=0 (not auto answer)

ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)

ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)

ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)

- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.
- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.

Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1

Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as FaxAbility.

NOTE THAT FAULT CALLOUTS CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

TEAC CD-RW／DVD-ROM ドライブ DW-28E (マルチドライブ)

安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

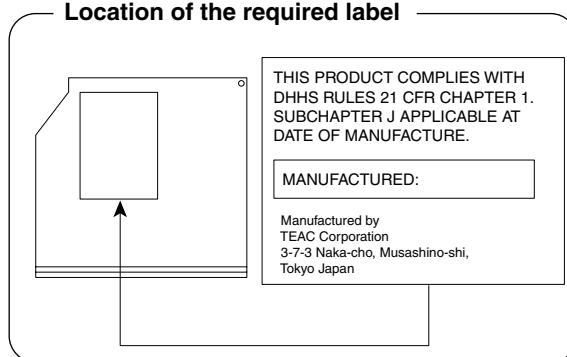
CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

- 本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
 3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
 4. ご使用的ディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
 5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CAUTION	INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE.
VORSICHT	EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
ADVARSEL	UNSICHTBARE LASERSTRÄHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET.
ADVARSEL	USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN.
VARNING	USYNLIG LASERSTRÅLING NÄR DEKSEL ÄPNES. UNDGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARO !	OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL AR OPPNAD. STRALEN AR FARLIG. NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESENEN.

付録

Location of the required label



松下 CD-RW／DVD-ROM ドライブ UJDA720 (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用してい

ます。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。

本装置はヨーロッパ共通の
レーザ規格 EN60825 で
“クラス 1 レーザー機器”に
分類されています。

レーザー光を直接被爆する
ことを防ぐために、この装
置の筐体を開けないでくだ
さい。

CAUTION	VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE.
VORSICHT	EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
ADVARSEL	SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRÄHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÄLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÄLING.
VARNING	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÄLING NÄR DEKSEL ÄPNES. UNNGÅ EKSPOSERING FOR STRÄLEN.
VARO !	SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÄLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRALE ÄR FARLIG.
	NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTIINA LASERSÄTEILYLLÄ, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

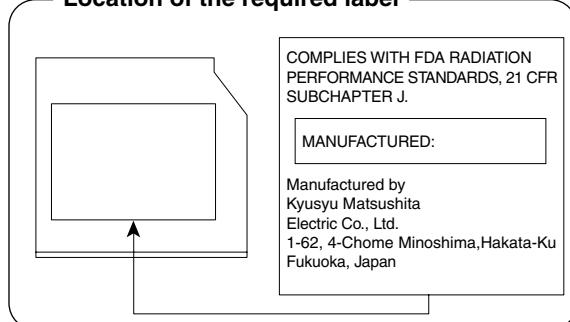
2. 分解および改造をしないで ください。感電の原因にな ります。信頼性、安全性、 性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を
使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害お
よび事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。
本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損
害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談
ください。

Location of the required label



東芝 CD-RW／DVD-ROM ドライブ SD-R2102 (マルチドライブ)

安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

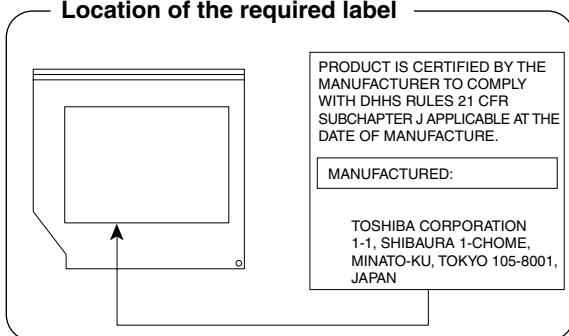
⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格
EN60825 で “クラス 1 レーザー機器に分類されています。レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。”
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。
本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
APPAREIL À LASER DE CLASSE 1
LASER KLASSE 1 PRODUKT
TO EN 60825-1
クラス 1 レーザー 製品

DANGER VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM. ATTENTION RAYONNEMENT VISIBLE ET INVISIBLE LASER EN CAS D'OUVERTURE EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU. VORSICHT SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRÄHLUNG WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN. 注意 ここを開くと可視レーザ光及び不可視レーザ光が 出ます。ビームを直接見たり触れたりしないこと。	ADVARSEL SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDSÆTTELSE FOR STRÅLING ADVARSEL SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPOSERING FOR STRÅLEN. VARO ! NÄKYVÄÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSATEILYLLÉ. ÄÄLÄ KATSO SÄTEESEN. WARNING SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÄLE ÄR FARLIG.
--	---

Location of the required label



さくいん

記号

■ キーを使ったショートカットキー ... 25

A

AC アダプタの仕様 18
Alt キー 20, 21
Arrow Mode LED 21, 22

B

BackSpace キー 21
BATTERY 158
Battery LED 19
BOOT PRIORITY 164

C

Caps Lock LED 20, 22
Caps Lock 英数キー 20
CD/DVD 再生ボタン 15
CD の取り扱い 49
COMMS インタフェース 182
COMMS コネクタ 16
CONFIGURATION 165
CRT ディスプレイを接続する 123
Ctrl キー 20, 21

D

DC IN LED 19
Del キー 21
Disk LED 19
DISPLAY 161
DMA 使用リソース 176
Drag'n Drop CD 95
DRIVES I/O 166
DVD-Video を観る 99
DVD の取り扱い 49

E

Enter キー 21
Esc キー 20

F

FDD/CD-ROM LED 19
FLOPPY DISK I/O 167
Fn キー 20
Fn キーを使った特殊機能キー 23

I

i.LINK インタフェース 177
i.LINK コネクタ 16
i.LINK 対応機器の取り付け 125
i.LINK 対応機器の取りはずし 125
i.LINK 対応機器を接続する 124
i.LINK によるネットワーク接続 .. 125
I/O PORTS 165
I/O ポートマップ 176
IEEE1394 インタフェース 177
IEEE1394 コネクタ 16
IEEE1394 対応機器の取り付け 125
IEEE1394 対応機器の取りはずし 125

IEEE1394 対応機器を接続する .. 124
Ins キー 21
InterVideo WinDVD 99
IRQ 使用リソース 176

L

LAN インタフェース 180
LAN ケーブルの接続 130
LAN コネクタ 16
LAN コネクタに関するインジケータ 131

さくいん

LANへ接続する	130
LEGACY EMULATION	166
M	
MEMORY	154
MotionDV STUDIO	108
MS-DOS の起動ディスクを作成する	45
N	
Numeric Mode LED	21, 22
O	
OTHERS	162
P	
PASSWORD	154
Pause キー	21
PC CARD	166
PCI BUS	166
PCI LAN	167
PC カードスロット	14
PC カードの取り付け	115
PC カードの取りはずし	115
PC カードを接続する	114
PERIPHERAL	160
Power LED	19
PrtSc キー	21
PRT インタフェース	181
PRT コネクタ	16
PS/2 インタフェース	183
PS/2 コネクタ	16
PS/2 対応機器	126
R	
RGB インタフェース	178
RGB コネクタ	16
RS-232C 対応機器	126
S	
SD Card LED	51
SDMI	51
SD メモリカード	51
SD メモリカードスロット	14
SD メモリカードのセット	52
SD メモリカードの取り扱い	54
SD メモリカードの取り出し	52
Shift キー	20, 21
Space キー	20
T	
Tab キー	20
U	
USB インタフェース	179
USB コネクタ	16
USB 対応機器の取り付け	117
USB 対応機器の取りはずし	117
USB 対応機器を接続する	117
W	
Windows Media Player	88
Windows のネットワーク設定	131
Win キー	20
ア	
アプリケーション一覧	170
アプリケーションキー	21
アプリケーションの削除	141
アプリケーションの追加	140
アロー状態	22
アンインストール	141

イ	壁紙を変える	35
インストントセキュリティ機能	23	
インストール	140	
インターネットボタン	15	
ウ		
ウィンドウの色を変える	37	
エ		
液晶ディスプレイの取り扱い	38	
オ		
オーディオデジタル再生ボタン	15	
オーディオプレイボタン	15	
オートスクロール	32	
オーバレイキー	21	
大文字ロック状態	22	
オリジナル音楽CDを作る	95	
音楽CDを聴く	88	
音楽ファイルを聴く	91	
カ		
海外でインターネットに接続する	65	
外形寸法図	172	
回線切換器	65	
解像度を変更する	36	
書き込み可能状態 (SDメモリカード)	53	
書き込み可能状態 (フロッピーディスク)	44	
書き込み禁止状態 (SDメモリカード)	53	
書き込み禁止状態 (フロッピーディスク)	44	
カタカナ／ひらがなキー	21	
カテゴリー	130	
キ		
キーシフトインジケータ	22	
キーフロッピーディスクの作成 ...	154	
キー ボード	14	
キー ボードの取り扱い	26	
逆送りボタン	15	
休止状態	83	
ク		
クイックフォーマット	45	
クリック	27	
サ		
再生／一時停止ボタン	15	
サウンド機能	40	
先送りボタン	15	
シ		
システムインジケータ	14, 19	
システム環境の変更	144	
使用できるCD	48	
使用できるDVD	49	
使用できるフロッピーディスク	42	
省電力モード	78	
ジョグホイール	14	
新着メールチェック機能	58	
ス		
数字ロック状態	22	
スクリーンセーバを使う	35	
スタンバイ	82	
スピーカ	14	
セ		
静電気について	135	

セキュリティロック	68
セキュリティロック・スロット	16
セットアッププログラム	151

ソ

増設メモリスロット	17
増設メモリの取り付け	135
増設メモリの取りはずし	137

タ

タッチパッド	14, 27
タッピング	27
ダブルクリック	27

ツ

通風孔	14
-----	----

テ

停止ボタン	15
ディスプレイ	14, 33
ディスプレイ開閉ラッチ	14
デジカメ Walker	105
デジタルカメラの写真を編集 / 整理する	105
デスクトップのテーマを変える	34
テレビに表示する	120
テレビを接続する	120
電源コードの仕様	18
電源コードの取り扱い	17
電源コネクタ	16
電源スイッチ	14

ト

動画を編集する	108
東芝 HW セットアップ	145
東芝コンソール	57
東芝コンソールボタン	15

東芝コントロール	55
東芝省電力ユーティリティ	77
特殊機能キー	25
時計用バッテリ	72
ドラッグアンドドロップ	27
取り付けられる増設メモリ	134

ナ

内蔵モデム	65
内蔵モデム用地域選択ユーティリティ	65

ハ

ハードウェアリソース	176
ハードディスクドライブ	39
パスワードの削除	147, 156
パスワードの登録	146
パスワードの変更	157
パスワードを忘れてしまった場合	157
パソコン本体の取り扱い	17
バッテリ	70
バッテリ駆動での使用時間	74
バッテリ充電完了までの時間	73
バッテリ充電量	71
バッテリの充電方法	73
バッテリの充電保持時間	74
バッテリパック	17
バッテリパックの交換方法	75
バッテリを長持ちさせるには	74
パネルスイッチ機能	85
半／全キー	20

ヒ

左ボタン	14
ビデオケーブルの取り付け	120

ビデオケーブルの取りはずし	122
ビデオ出力端子	16
ビデオモード	173
表示可能色数	33
フ	
ファンクションキー	20
フォーマット (SDメモリカード)	54
フォーマット (フロッピーディスク)	
	44
プラグアンドプレイ	113
プリンタケーブルの取り付け	118
プリンタケーブルの取りはずし	119
プリンタの設定	118
プリンタを接続する	118
フロッピーディスクドライブ	16, 42
フロッピーディスクドライブの取り扱い	
	47
フロッピーディスクのセット	43
フロッピーディスクの取り扱い	47
フロッピーディスクの取り出し	43
分岐アダプタ	65
ヘ	
ヘッドホン	128
ヘッドホン出力端子	14
変換キー	21
ホ	
ボリュームダイヤル	14, 40
本製品の仕様	172
マ	
マイク入力端子	14
マイクロホン	127
マスタ音量	40
マルチドライブ	16, 48
ミ	
右ボタン	14
ム	
無変換キー	20
メ	
メール着信 LED	58
メールボタン	15
メモリマップ	176
メモリ容量の確認	138
メモリを増設する	133
モ	
モジュラージャック	16
モデムインターフェース	179
ヤ	
矢印キー	21
ラ	
ライトプロテクトタブ	
(SDメモリカード)	53
ライトプロテクトタブ	
(フロッピーディスク)	44
ロ	
録音レベルの調整	41
ワ	
ワンタッチボタン	55

